

柴田町 スポーツ推進計画

平成28年7月

宮城県柴田町教育委員会

ごあいさつ

現在、町民一人ひとりが目的に応じて、生涯にわたりスポーツに親しむべく、各種スポーツイベントを開催するなどして、スポーツを通して仲間づくり、健康づくりに取り組んでいます。また、体育科がある柴田高校、仙台大学のある町として、町民と高校生・大学生の連携を図ることにより、町民のスポーツに対する関心を高めるとともに、町民の体力・運動能力や競技力の向上につなげることが可能な環境にあることが特色と言えます。

また、昨年度から町のスポーツ振興の一環として、地方創生事業のトップアスリート育成事業に取り組んでいます。この事業は、仙台大学に委託して、子供たちが夢を大きく持ち、夢の実現に向かって努力することができることなどを目指しています。昨年度は、元オリンピック選手秋山エリカさんを招致しての体操教室開催や体力・運動能力向上指導者研修会などを行いました。さらに、今年8月にはリオデジャネイロオリンピック・パラリンピック大会、2020年には東京オリンピック・パラリンピック大会が開催されるなど、町民のスポーツに対する関心もますます高まることと思われます。このような中、国や社会の動きに対応するとともに、本町の特色を活かしながら、「いつでも」「だれでも」「いつまでも」スポーツ活動に取り組み、生涯にわたってスポーツ活動に親しめるまちづくりを基本理念として、新たに「柴田町スポーツ推進計画」を策定しました。

この計画を推進することで、スポーツを通じて人と人がつながり、町や人が元気になり、ひいては「みんなで育てる笑顔輝く元気なまちづくり」につながっていくことを目指しています。町民が待ち望んでいる（仮称）総合体育館建設に向け計画を進めておりますが、（仮称）総合体育館を拠点としてスポーツでつながる町づくりが着実に実現されることを心から期待しております。

最後になりますが、本計画を策定するにあたり、ご協力をいただきました柴田町スポーツ推進計画策定委員の皆様をはじめ、団体の皆様、そして、貴重なご意見をお寄せいただきました町民の皆様に心から感謝申し上げますとともに、今後ともご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成 28 年 7 月

柴田町教育委員会

教育長 船 迫 邦 則

目 CONTENTS 次

第1章 柴田町スポーツ推進計画の策定に当たって	1
1 策定の趣旨	
2 基本目標	
3 基本方針	
4 計画の位置づけ	
5 計画の期間	
6 計画の構成	
第2章 計画推進のための施策	4
I 子どもを中心としたライフステージに応じたスポーツ活動の推進	
1 子ども世代の運動との関わりが多様化と運動能力の向上	
(1) 幼年期の生活と運動	
(2) 少年期の多種多様なスポーツとの関わり	
(3) 体力・運動能力及び競技力の向上(柴田高校・仙台大学との連携)	
2 青年期以降の運動・スポーツ機会の保障	13
(1) 青年期以降の世代へ向けた運動の機会	
(2) 障がい児・障がい者とともに行う運動の機会	
3 スポーツ・文化活動を通じた交流によるコミュニティの再構築	17
(1) 行政区単位のスポーツ事業の充実(多世代)	
(2) 近隣市町村民や諸外国民とのスポーツ・文化・国際交流	
II スポーツ活動を支えるスポーツ環境の整備	19
1 スポーツ関連組織体制の強化と各組織の連携	
(1) 柴田町総合型地域スポーツクラブ(柴田町体育協会)の進展と中核化	
(2) スポーツ指導者等組織の再編成とスポーツ指導推進体制の強化	
(3) 各種スポーツ団体間及び地域団体とのネットワークの構築及び強化	
2 多機能スポーツ施設等の効果・効率的な運用管理	23
(1) 既存体育・スポーツ施設の利活用	
(2) (仮称)柴田町総合体育館の建設と円滑な運用	
第3章 資料	26

第1章 柴田町スポーツ推進計画の策定に当たって

1 策定の趣旨

スポーツは「する」だけでなく、「みる」「ささえる」など、かかわり方が多様化しています。町民一人ひとりが目的に応じて、生涯にわたり「いつまでも」スポーツに親しめる生涯スポーツ社会の実現に向け、多様化したニーズや課題に対して積極的に対応するとともに、計画的に取り組む必要があります。

前回策定した「柴田町生涯スポーツ振興計画」は、平成14年度から平成25年度までの12年間の計画期間で各種施策に取り組んで参りました。

平成23年6月には国のスポーツ基本法が施行されるとともに、「柴田町生涯スポーツ振興計画」も計画期間が終了したことから、スポーツ基本法の基本理念に基づき、新たなスポーツに関する施策を総合的かつ計画的に推進し、生涯スポーツ社会の実現に向けたスポーツ環境を整備するため、「柴田町スポーツ推進計画」を策定します。

2 基本目標

近年において、地域住民生活の人間関係が希薄となり精神的なストレスの増大や、体を動かす機会の減少による体力・運動能力の低下など、心身両面にわたる健康上の問題も増加しております。

このような社会状況の中で「スポーツ」の果たす意義・役割を考えると、住民のスポーツへの主体的な取り組みを基本として、住民のニーズや期待にこたえ「いつでも」「だれでも」「いつまでも」スポーツ活動を継続的かつ生涯にわたってスポーツと親しめるよう環境を整備する必要があります。

施策の実施に際しては、長期的視野に立ち、目標達成に向けてその進捗状況や実績を検証するとともに、計画的に推進し住民と行政が連携・協働して、町の将来像である「みんなで育てる 笑顔輝く 元気なまち」の実現を目指します。

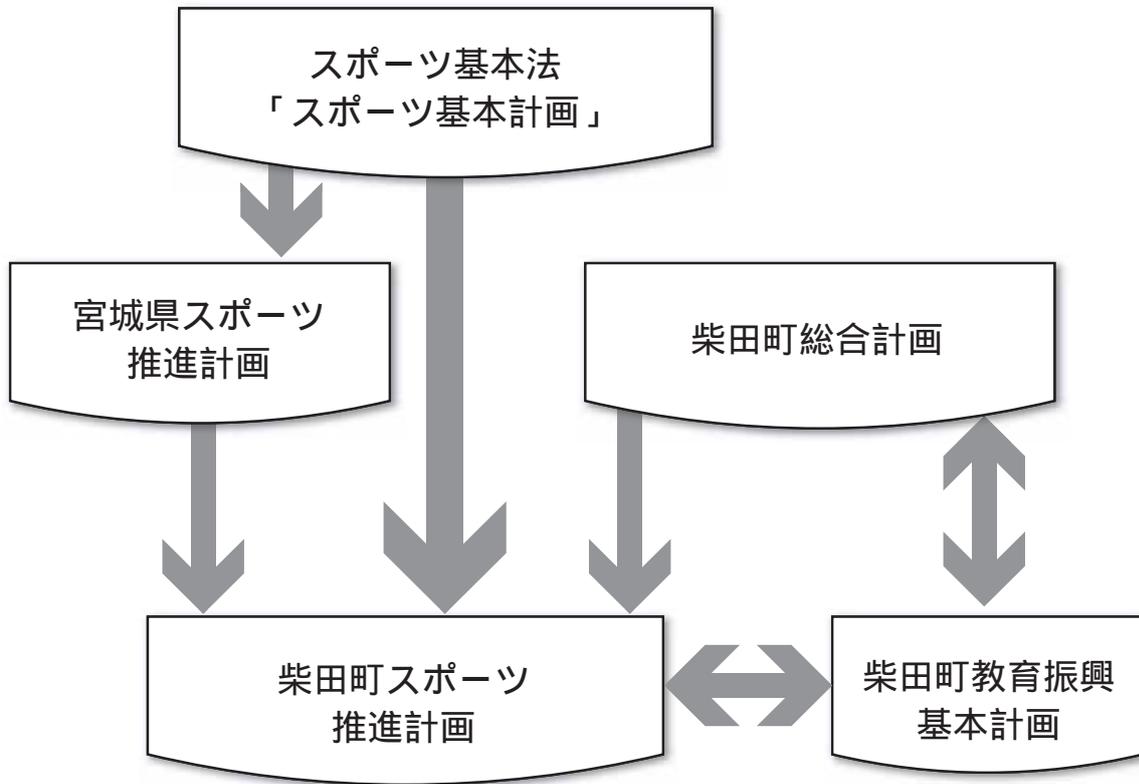
3 基本方針

本計画では、基本目標とした将来の目指すべき姿の実現に向けて、次の5つの基本方針に基づき、スポーツ推進施策を展開していきます。

- (1) 子ども世代の運動との関わりの多様化と運動能力の向上
- (2) 青年期以降の運動・スポーツ機会の保障
- (3) スポーツ・文化活動を通じた交流によるコミュニティの再構築
- (4) スポーツ関連組織体制の強化と各組織の連携
- (5) 多機能スポーツ施設等の効果・効率的な運用管理

4 計画の位置づけ

この計画は、国のスポーツ基本法（平成23年法律第78号）第10条の規定に基づき、スポーツに関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、また、「柴田町総合計画」の「スポーツ活動の推進」の施策をより具体化するものと位置づけます。



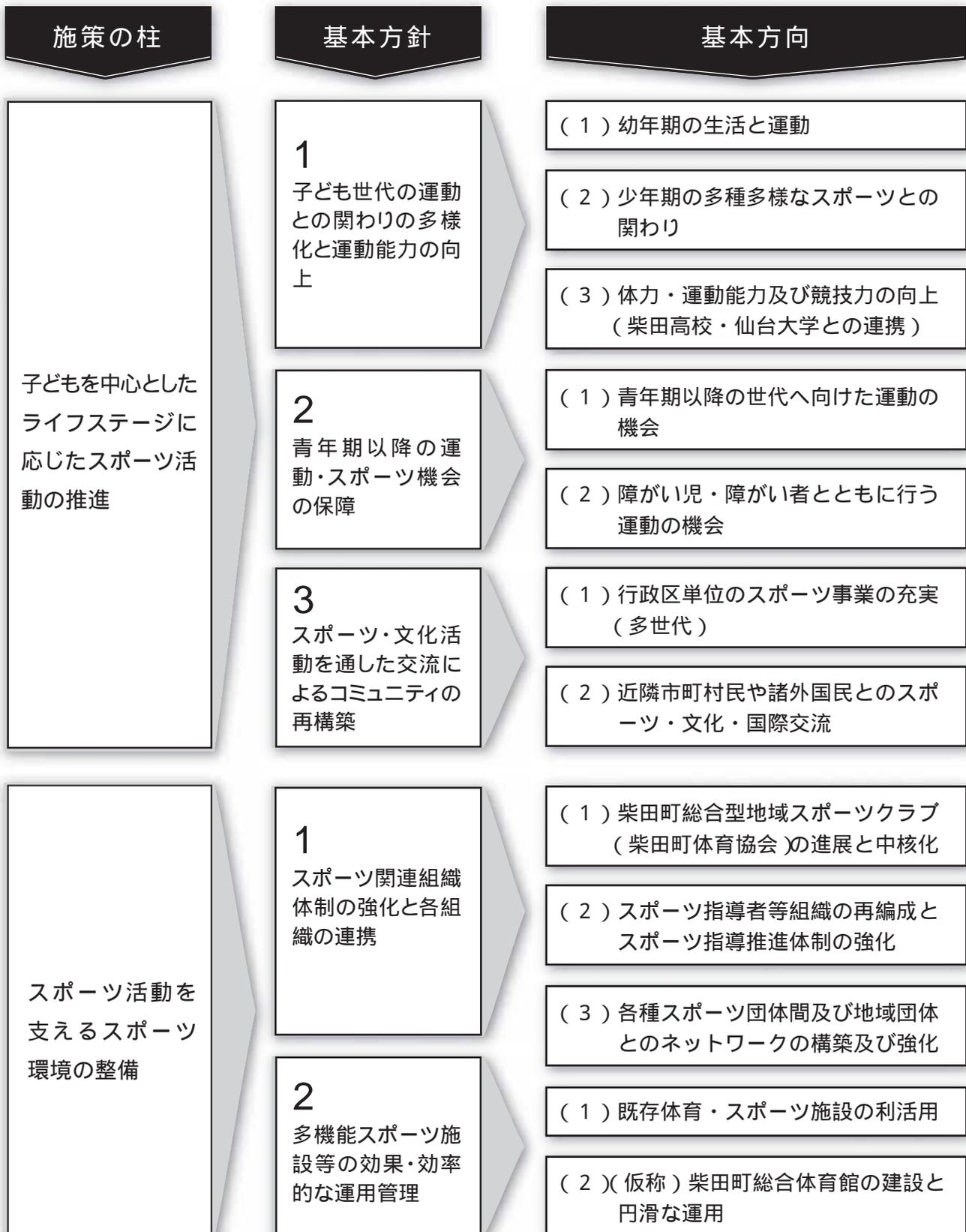
5 計画の期間

本計画は、平成28年度を初年度とし、柴田町の総合計画期間に合わせ、平成38年度を目標年度とする11年計画とします。

なお、社会情勢やスポーツを取り巻く環境の変化に対応するために、概ね5年後に計画の見直しを行います。

また、本計画に基づく施策の実施に際しては、適宜その進捗状況の把握に努めるものとします。

6 計画の構成



第2章 計画推進のための施策

I 子どもを中心としたライフステージに応じたスポーツ活動の推進

1. 子ども世代の運動との関わりの多様化と運動能力の向上

(1) 幼年期の生活と運動

<現状と課題>

文部科学省の「幼児期運動指針」によると、幼児期における身体活動の現状と問題点として、「多様な動きを含む遊びの経験が少なくなっている」、「体を動かして遊ぶ時間や環境が少なくなっている」といった指摘がなされています。

柴田町の児童（小学校5年生）を対象とした調査において体力合計点が高かった児童は次のとおりです。

- (1) 学校入学前に運動遊びを好んでいた児童
- (2) 幼稚園・保育園時代の運動遊び頻度が多かった児童
- (3) 学校入学前に家の人との運動遊び頻度が多かった児童
- (4) 学校入学前に地域の子供たちとの運動遊び頻度が多かった児童
- (5) 小学校入学前にいろいろな内容の運動遊びを実施していた女子児童

また、1日の総運動時間が長いのは、小学校入学前にいろいろな内容の運動遊びを実施していた女子児童であり、さらに、「運動が好き」と回答する割合が高いのは、小学校入学前にいろいろな内容の運動遊びを実施していた児童となっています。

「幼児期運動指針」では、幼児期における運動の意義として、5つ提示されています。

- (1) 体力・運動能力の基礎を培う
- (2) 丈夫で健康な体になる
- (3) 意欲的に取り組む心が育まれる
- (4) 協調性やコミュニケーション能力が育つ
- (5) 認知的能力の発達にも効果がある

これらも踏まえ、幼児期における運動の配慮事項と保育者・保護者の方々に向けた提案がなされています。

保育者への提案

- (1) 「いろいろな遊びの中で十分に体を動かす」ことができるように
- (2) 「自発的に体を動かして遊ぶ」ことができるように
- (3) 「安全に楽しく遊べる環境をつくる」ことができるように
- (4) 「保護者と連携し、共に育てる」ことができるように

保護者への提案

- (1) 多様な動きが含まれる遊びを取り入れましょう
- (2) 楽しく体を動かす時間をつくりましょう
- (3) 安全に楽しく遊ぶことができる環境をつくりましょう

<施策の方向性>

(1) 幼年期の子どもを対象としたスポーツフェスティバル in 柴田での事業の更なる充実、また柴田町総合型地域スポーツクラブにおいても幼年期の子どもを対象とした事業を計画実施できるよう支援します。これらにより幼年期の子どもの生活や運動の実態を把握し、それに見合った多様な経験の機会を増やしていきます。

※参考：平成 26 年度全国体力・運動能力・運動習慣等調査結果を基に集計

※参考：文部科学省（幼児期運動指針策定委員会）「幼児期運動指針」ガイドブック



(2) 少年期の多種多様なスポーツとの関わり

<現状と課題>

1) 運動やスポーツの実施状況

表1 運動やスポーツの実施状況

	定期的	時々	ほとんど実施せず
男子(n=532)	53.0%	33.1%	13.9%
女子(n=507)	32.9%	39.1%	28.0%
全体(n=1039)	43.2%	36.0%	20.8%

全体では、約8割の子ども達が「定期的」あるいは「時々」運動やスポーツをしています。

男女別では男子が、学年別では中学生が定期的によく運動をしています。しかし男子は学年が上がるに従いよく運動していますが、女子は「ほとんど実施していない」割合も高くなり、運動をよくする児童・生徒としない児童・生徒の二極化現象が指摘できます。

2) 運動やスポーツを始めたきっかけや続けている理由

表2 運動やスポーツを始めたきっかけや続けている理由(上位5位)<複数回答>

	体を動かす楽しさ	もっと上手になりたい	家族の勧め	友達に誘われた	いい記録や勝つとうれしい
男子(n=458)	49.6%①	42.1%②	21.4%③	21.4%③	15.5%⑤
女子(n=365)	45.5%①	38.9%②	20.5%③	15.9%④	15.9%④
全体(n=823)	47.8%①	40.7%②	21.0%③	19.0%④	15.7%⑤

運動やスポーツを始めたきっかけや続けている理由では、「体を動かす楽しさ」や「もっと上手になりたい」が多く、次に「家族の勧め」や「友達に誘われた」が多くなっています。

「体を動かす楽しさ」という理由は小学校1～3年生ほど多く、特に女子の場合にはその傾向が顕著です。「もっと上手になりたい」は、男子の場合学年が上がるに従い多くなる傾向があります。「家族の勧め」は特に小学校1～3年生に、「友達に誘われた」は小学校4～6年生に多くなっています。

「いい記録や勝つとうれしい」という理由は、男女ともに学年が上がるに従い顕著に多くなっています。

3) 実施している運動やスポーツ種目（上位5種目）と今後の実施希望

実施している運動やスポーツの種目について、全体では、男子は「サッカー」、「野球」、「その他の種目」、「スイミング」、「ジョギング・ランニング」の順、女子は、「その他の種目」、「スイミング」、「なわとび」、「踊りやダンス」、「ジョギング・ランニング」の順となっています。男子は、サッカーと野球が各学年とも圧倒的に多いです。女子は特定の種目が突出することなく、様々な種目を行っていることがわかります。また、「スイミング」は男女とも小学生が中心といえます。

現在実施している種目では、男子はサッカーや野球の人気は高いものの、今後の実施希望種目に関しては、小学生の「バスケットボール」や中学生の「テニス」の希望が多くなっています。同様に女子も、現在あまり行われていない「バドミントン」や「踊りやダンス」の回答がいずれの学年でも多く、また小学校4～6年生や中学生では「バスケットボール」の回答も多く見られます。

4) 現在実施しているスポーツ以外の希望意向

表3 現在実施しているスポーツ以外の希望意向

	今やっているスポーツに集中したい	いろいろな種目のスポーツもやってみたい	気軽にやれるスポーツもやってみたい	もう1種目ぐらいはやりたい	今やっているスポーツはやめたい
男子(n=458)	38.2%①	28.8%②	18.1%③	11.4%④	0.7%⑤
女子(n=365)	21.6%③	29.6%①	27.7%②	11.8%④	2.5%⑤
全体(n=823)	30.9%①	29.2%②	22.4%③	11.5%④	1.5%⑤

現在実施しているスポーツ以外の希望意向では、学校段階や学年による違いが見られません。

全体として最も多い「今やっているスポーツに集中したい」は学年が上がるに従い多くなり、次に多い「いろいろな種目のスポーツもやってみたい」は小学校1～3年生ほど回答が多いです。

また、「気軽にやれるスポーツもやってみたい」は小学校4～6年生ほど、逆に「もう1種目ぐらいはやりたい」は小学校1～3年生ほど希望する割合が高いのが現状です。

さらに性別では、「今やっているスポーツに集中したい」は男子に多く、「気軽にやれるスポーツもやってみたい」は女子に多く見られます。

5) 運動やスポーツをしない理由

表4 運動やスポーツをしない理由<複数回答>

	疲れる	塾や用事で時間がない	体を動かすのが嫌い	うまくできない	友達と一緒にでない
男子(n=74)	23.0%②	8.1%⑦	28.4%①	18.9%④	21.6%③
女子(n=142)	26.1%②	33.8%①	20.4%③	20.4%③	14.8%⑥
全体(n=216)	25.0%①	25.0%①	23.1%③	19.9%④	17.1%⑤

	スポーツのできる所がない	スポーツをする場所が遠い	けがをするのが心配	家の人が許可しない	その他
	10.8%⑥	14.9%⑤	6.8%⑨	8.1%⑦	16.2%
	16.9%⑤	9.9%⑦	5.6%⑧	4.9%⑨	15.5%
	14.8%⑥	11.6%⑦	6.0%⑧	6.0%⑧	15.7%

全体では、「疲れる」、「塾や用事で時間がない」、「体を動かすのが嫌い」、「うまくできない」、「友達と一緒にでない」などが多くなっています。

「塾や用事で時間がない」は女子及び小学校4～6年生で大きな理由となっており、特に中学生女子では約半数が回答しています。

また「体を動かすのが嫌い」は男子、特に中学生男子で多くなっています。「疲れる」も小学校4～6年生ほど多い傾向にあります。「友達と一緒にでない」は小学生に回答が集中しています。

「スポーツのできる所がない」、「スポーツをする場所が遠い」という場所の問題に対しては、小学校1～3年生からの回答が多くなっています。

<施策の方向性>

- (1) 運動をよくする児童・生徒としない児童・生徒の二極化現象が指摘されることから、まずは運動をあまりしない児童・生徒を少なくしていきます。そのために、運動実施の抵抗条件となっている施設・プログラム・クラブといったスポーツ事業の改善に努めます。
- (2) 今後実施することを希望する運動やスポーツ種目には多様性が見られ、また現在実施している運動種目以外の種目への実施意向も一定程度あることから、そのような種目を体験・実施できる機会を設けていきます。

※参考：柴田町総合型地域スポーツクラブ検討委員会「スポーツに関するアンケート調査集計・分析—小中学生の調査結果—」平成24年12月

(3) 体力・運動能力及び競技力の向上（柴田高校・仙台大学との連携）

<現状と課題>

1) 小学校期の現状

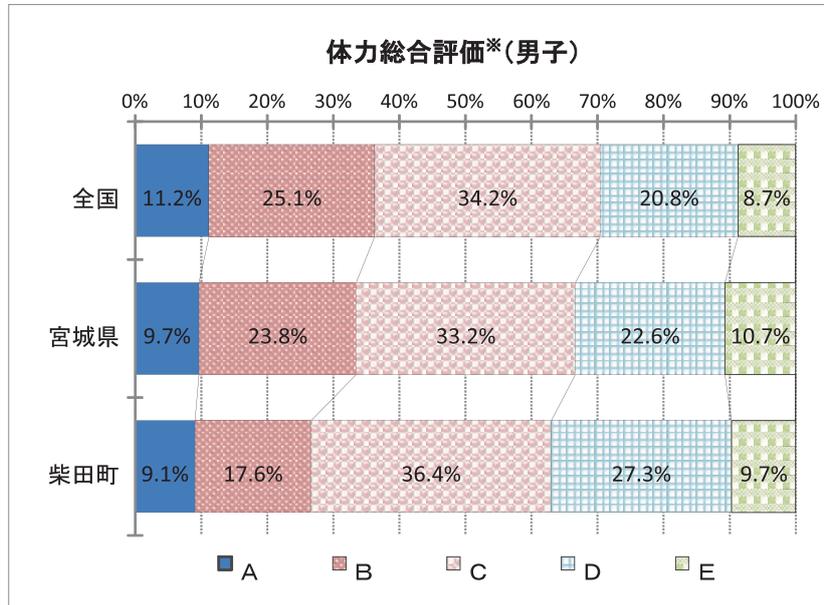


図1 小学校5年生男子の体力総合評価（全国・宮城県・柴田町）

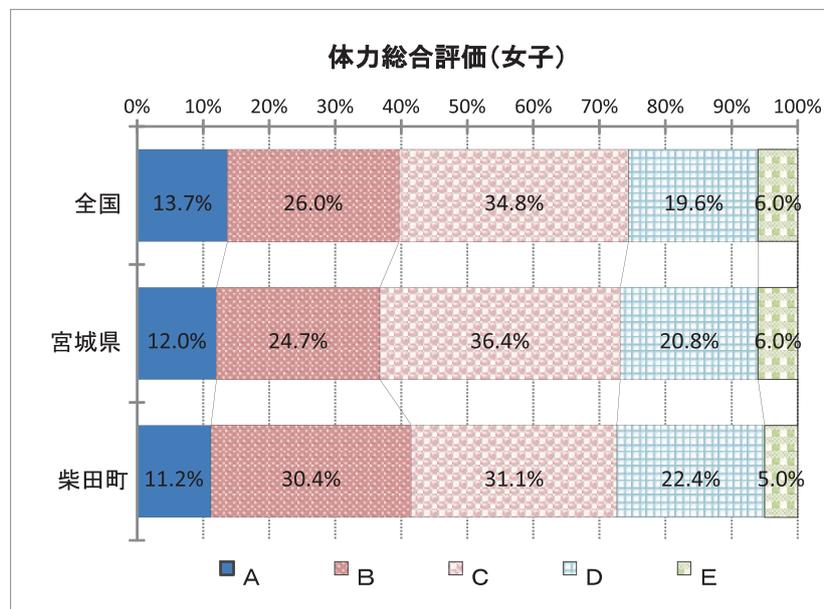


図2 小学校5年生女子の体力総合評価（全国・宮城県・柴田町）

※体力総合評価とは、文部科学省新体力テストの「総合評価表（総合評価基準）」を用いて、各測定における体力合計点の高い水準からA～Eの5段階で表したものです。

体力総合評価がA・Bを示した割合は、男子で全国 36.3%、宮城県 33.5%、柴田町 26.7%、女子では全国 39.7%、宮城県 36.7%、柴田町 41.6%でした。

柴田町の男子児童におけるA・B評価者の割合は、全国や宮城県に比べ低く、一方、女子については、全国や宮城県に比べ高いものの、A評価者のみで比較すると割合は低くなります。また、D・E評価者の割合が最も高くなっています。

2) 中学校期の現状

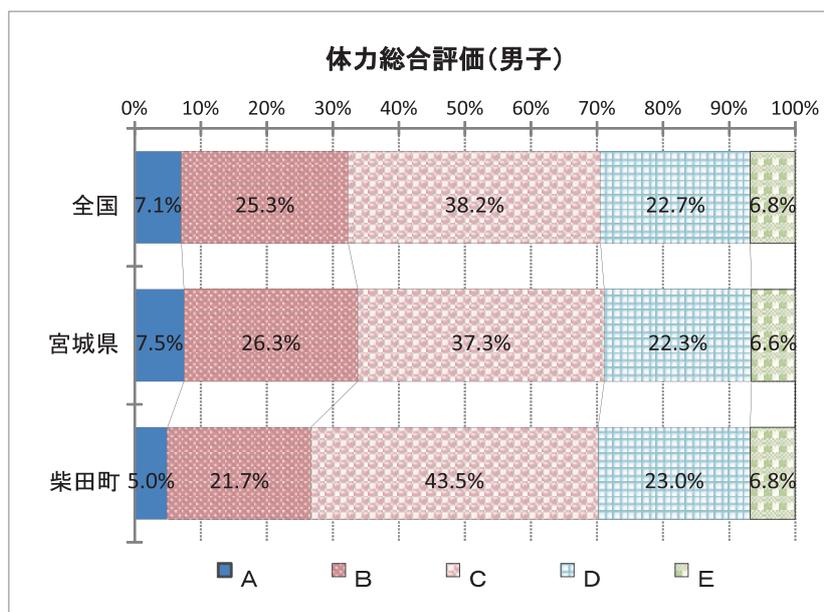


図3 中学校2年生男子の体力総合評価（全国・宮城県・柴田町）

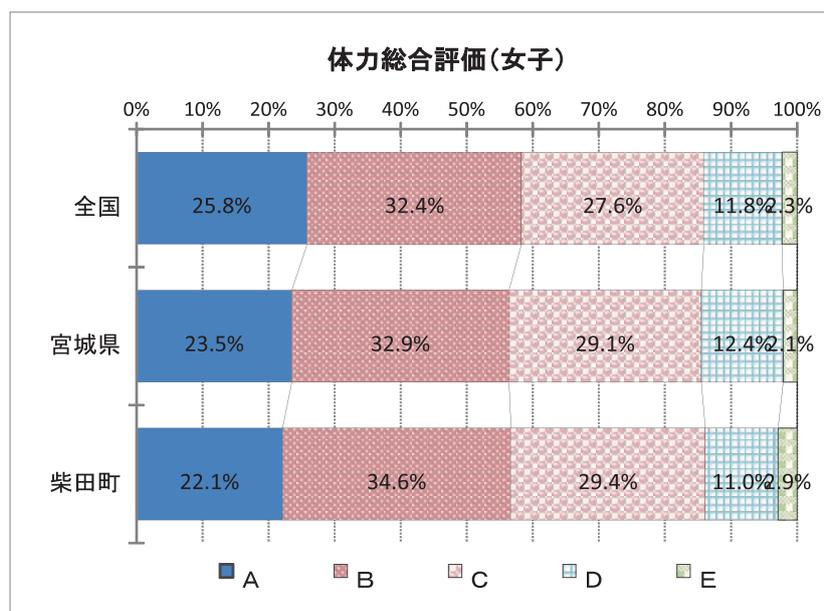


図4 中学校2年生女子の体力総合評価（全国・宮城県・柴田町）

体力総合評価がA・Bを示した割合は、男子で全国32.4%、宮城県33.8%、柴田町26.7%、女子では全国58.2%、宮城県56.4%、柴田町56.7%でした。

柴田町の男子生徒におけるA・B評価者の割合は、全国や宮城県に比べ低く、一方、女子については、全国よりわずかに低いものの、宮城県とはほぼ同率となっています。しかし、A評価者のみで比較すると割合は低いのが現状です。

<施策の方向性>

幼年期および少年期における多種多様なスポーツとの関わりを重視した施策の成果として、中期的には宮城県の割合よりもA・B評価者を増加させ、D・E評価者を減少させることを目指します。

また、長期的には全国の割合よりもA・B評価者を増加させ、D・E評価者を減少させることを目指します。

※参考：平成26年度全国体力・運動能力・運動習慣等調査結果を基に集計

3) 小・中学生に対する柴田高校としての取り組み

柴田高校の強化指定部（野球・陸上競技・水球・柔道・剣道・体操競技・ウエイトリフティングの各部）が柴田町内の小・中学生に対しスポーツ交流会やスポーツ教室を行い競技力の向上の手助けをしています。

柴田高校部活名	開催教室	対象者
野球部	少年野球教室	柴田町・近隣市町村の小学生
陸上競技部	陸上教室	小・中学生
水球部	水泳教室	小学生
	柴田水球クラブ	中学生
柔道部	柔道教室 (仙台大学との連携)	小・中学生
剣道部	剣道教室	中学生
体操競技部	体操教室	小学生（男子）
ウエイトリフティング部	体づくり教室	小・中学生・親子

<施策の方向性>

今後も継続できるよう柴田高校との連携の強化を図ります。

4) 仙台大学との連携、協働事業の推進

国の地方創生事業においてトップアスリート育成事業が平成27年度から実施されています（5ヶ年計画）。柴田町から仙台大学へ事業を委託し、町内小・中学生の体力向上と運動習慣を身につけさせることで、子どもたちの個性や能力を引き出し、自らの夢の実現に向けて意欲的に自ら学び、自ら考える子どもたちを育む子育ての環境整備に取り組むことを目指しています。また、総合型地域スポーツクラブのアシスタントマネージャー養成、スポーツ教室への学生派遣をとおして、スポーツクラブの支援をしています。さらに、小・中学生対象に、トップアスリートや学生によるスポーツイベントを実施し、各競技種目のレベルアップにも取り組んでいます。将来子どもたちが成長して、トップアスリートや指導者として、町の子どもたちの心・技・体の向上やスポーツの普及・振興に貢献する若者の地域での自立と雇用の確保を実現するものです。長期的にはその間、指導に携わった学生等が、町への定住化を図ることを目的としています。

<施策の方向性>

仙台大学の持つ専門的な資源を活用し、町内の小中学生の体力・運動能力および競技力の向上に努めます。



2. 青年期以降の運動・スポーツ機会の保障

(1) 青年期以降の世代へ向けた運動の機会

<現状と課題>

1) 運動やスポーツの実施状況

表5 運動やスポーツの実施状況

	定期的	時々	ほとんど実施せず
男性(n=826)	18.6%	25.1%	56.4%
女性(n=1187)	15.0%	14.2%	70.9%
全体(n=2013)	16.4%	18.6%	64.9%

全体では、16.4%の町民が「定期的」に、18.6%が「時々」運動やスポーツを行っていますが、64.9%の町民は「ほとんど実施していない」との回答でした。単純に比較は出来ませんが、全国調査（内閣府「体力・スポーツに関する世論調査（2009）」）では、成人の「週1回以上の定期的スポーツ参加者」は約45%、本調査では成人町民（16～19歳を除く）の「定期的実施者」の割合は15.3%であることから、非常に少ないといえるでしょう。特に、30歳代から50歳代の中年層の運動・スポーツ実施が課題といえます。

2) 運動やスポーツを始めたきっかけや続けている理由

表6 運動やスポーツを始めたきっかけや続けている理由(上位5位)<複数回答>

	健康や体力の維持	体を動かす楽しさ	仲間や家族との交流	ストレス解消	学生時代の経験
男性(n=360)	49.7%①	34.2%②	20.8%④	17.2%⑤	21.7%③
女性(n=346)	51.7%①	43.6%②	19.1%④	19.4%③	13.9%⑤
全体(n=706)	50.7%①	38.8%②	20.0%③	18.3%④	17.8%⑤

運動やスポーツを始めたきっかけや続けている理由では、全体では「健康や体力の維持」、「体を動かす楽しさ」、「仲間や家族との交流」、「ストレス解消」などが多くなっています。「健康や体力の維持」は年代が高いほど、「体を動かす楽しさ」は若年層ほど多くなっています。「ストレス解消」は中年層で多い結果となっています。

3) 実施している運動やスポーツ種目(上位5種目)と今後の実施希望

全体では、男女とも1位は「ウォーキング・ランニング」、2位は「その他」のスポーツ、3位は男性「野球・ソフトボール」で女性は「バレーボール」、4位は男女ともに「筋力トレーニング」の順となっています。

全国調査では、男女とも1位は「ウォーキング」、2位「体操」、3位「ボウリング」、以下、男性は「ゴルフ」、「ジョギング」、女性は「テニス」、「バドミントン」、「卓球」等となっています。本町の場合、「ウォーキング」以外の種目は「その他」に入っていることが予想され、全国の傾向とあまり変わらないといえます。

今後の実施希望種目では、現在はそれほど実施率が多くなかった「スイミング・水中トレーニング」が男女ともに1位となっており、特に30歳代以降の年代に人気があります。また若い世代や女性の実施希望が多い「バドミントン」も含め、それらの希望者に対するスポーツ施設や指導者等の対応や配置が必要といえます。女性との比較では、男性において「特になし」との回答が多く見られます。

4) 現在実施しているスポーツ以外の希望意向

表7 現在実施しているスポーツ以外の希望意向

	今やっているスポーツに集中したい	いろいろな種目のスポーツもやってみたい	気軽にやれるスポーツもやってみたい	もう1種目ぐらいはやりたい	今やっているスポーツはやめたい
男性(n=360)	30.8%②	19.7%③	31.7%①	11.7%④	0.6%⑤
女性(n=346)	24.3%②	17.9%③	39.3%①	12.4%④	0.3%⑤
全体(n=706)	27.6%②	18.8%③	35.4%①	12.0%④	0.4%⑤

現在実施しているスポーツ以外の希望意向では、小中学生同様、年代による違いが見られます。

全体として最も多い「気軽にやれるスポーツもやってみたい」は、特に30～50歳代の年齢層に多く、次に多い「今やっているスポーツに集中したい」は、16～19歳の若年層及び60歳代以上の高齢者世代に多く見られます。全体で3番目の「いろいろな種目のスポーツもやってみたい」は、20歳代以下の若手世代に多く見られます。

5) 運動やスポーツをしない理由

表8 運動やスポーツをしない理由<複数回答>

	仕事や用事で時間がない	きっかけがない	他にやることがある	疲れる	費用がかかりそう
男性(n=466)	66.1%①	33.0%②	24.7%③	16.3%④	10.7%⑤
女性(n=841)	55.2%①	32.6%②	19.7%③	14.6%⑤	17.2%④
全体(n=1307)	59.1%①	32.7%②	21.5%③	15.2%④	14.9%⑤

体を動かすのが嫌い	怪我が心配	上手にできない	スポーツをする施設が空いてない	その他
5.2%⑥	4.7%⑦	1.3%⑨	3.6%⑧	4.9%
7.8%⑥	5.5%⑧	5.7%⑦	3.9%⑨	7.4%
6.9%⑥	5.2%⑦	4.1%⑧	3.8%⑨	6.5%

全体では、「仕事や用事で時間がない」、「きっかけがない」、「他にやることがある」、「疲れる」、「費用がかかりそう」の順に多くなっています。

「仕事や用事で時間がない」、「きっかけがない」という理由で運動しないのは、16～19歳と70歳代以上を除く他の年代において特に多く見られます。

<施策の方向性>

- (1) 実態調査に基づき成人町民（16～19歳を除く）の「定期的実施者」の割合を15.3%から25%以上となるよう目指します。特に、30歳代から50歳代の中年層への働きかけを重視すると共に、「きっかけがない」との理由で運動やスポーツを実施していない人も多く見られることから、広報紙やホームページなどで積極的に情報提供していきます。
- (2) 今後の実施希望として多い「スイミング・水中トレーニング」や、若い世代や女性の実施希望が多い「バドミントン」も含め、それらの希望者に対するスポーツ施設の利用の便宜や指導者の配置に努めます。現在実施している運動種目以外の種目への実施意向も「気軽さ」や「多種目」への需要はかなりあることから、柴田町総合型地域スポーツクラブの事業等を通して、そのような種目を体験・実施できるよう支援していきます。

※参考：柴田町総合型地域スポーツクラブ検討委員会「スポーツに関するアンケート調査集計・分析—大人（16歳以上）の調査結果—」平成24年12月



(2) 障がい児・障がい者とともに行う運動の機会

<現状と課題>

- 1) 障がい者スポーツは、障がい者がスポーツを通じて自らの可能性にチャレンジし、仲間との交流やコミュニケーションが深められるよう、障がいの種類や程度に応じたクラス分け、ルールや用具を変更・考案して実施するところに特徴があります。スポーツに苦手意識を持つ子どもや高齢者等も参加可能で障がいのある人もない人も共に実践できるスポーツとしての可能性があります。
- 2) 障がい者スポーツの推進は、障がい者の生きがいや生活の質の向上、地域社会の活性化、健康長寿社会や共生社会の構築にも貢献できます。
- 3) 現状は、障がい者の週1回以上のスポーツ実施率は18.2%（成人一般40.4%）となっています。また、障がい者スポーツを推進する団体や組織は脆弱しています。
- 4) 柴田町社会福祉協議会は平成25年度から平成26年度に文部科学省の指定を受け、障がいがある人とない人のスポーツ・レクリエーション交流事業を実施しました。障がい児・障がい者団体や住民、ボランティア実践者等が参加し、まずは楽しさ、そして難しさも味わい、「またやってみたい」を目標に定期的に開催してきました。事業は参加者へ定着してきましたが、まだ周知が不足しています。また、会場のバリアフリー対策（駐車場、トイレ等）を考えると会場に制限があることから、会場施設のバリアフリー化の拡充が求められています。さらに、正式ルールのみならず、お互いが無理なく楽しめるルールの開発や工夫、そしてボランティアスタッフも多く必要なため人材不足の解消が課題となっています。

<施策の方向性>

- (1) すべての人が利用しやすいように、ユニバーサルデザインを導入した（仮称）柴田町総合体育館の建設及び施設整備に努めます。
- (2) 柴田町総合型地域スポーツクラブの事業等に障がい児・障がい者が参加できるスポーツの機会の調整を図ります。
- (3) 障がい児・障がい者が関与する既存・新規サークルの自発的活動につながるよう支援していきます。
- (4) 障がい者スポーツの関係機関や障がい者スポーツ協会等が中核となり、連携・共同体制を構築し、人材や資源を十分に活用しつつ推進します。

※参考：地域における障害者スポーツ普及促進に関する有識者会議「地域における障害者スポーツの普及促進について（中間整理）概要」平成27年8月

※参考：柴田町福祉課「柴田町障害者福祉計画 平成27年度から平成32年度」平成27年3月

3. スポーツ・文化活動を通じた交流によるコミュニティの再構築

<現状と課題>

(1) 行政区単位のスポーツ事業の充実（多世代）

昭和年代に柴田町総合運動場にて全町民を対象にした各行政区対抗（4ブロック対抗）町民運動会（体育祭）を開催していました。約5,000人の町民が参加する行事としてたいへん盛り上がっていました。

現在は、区民運動会や野外運動会が数区で開催されており、特定の区では行政区内の仙台大学留学生を招待しての交流的活動を展開しています。他の数区は近隣の小学校や中学校の体育館を会場に開催している現況にあります。

このような活動は、特に新興住宅地の行政区におけるコミュニティ構築には欠かせないと考えますが、役員の方々の高齢化により、必ずしも継続的な活動として成り立っている状況にはありません。近年、行政区対抗のイベントとして「柴田町行政区対抗玉入れ大会」が定着しつつあります。

(2) 近隣市町村民や諸外国民とのスポーツ・文化・国際交流

1) スポーツ交流

柴田町・亘理町・山元町・福島県新地町・北海道伊達市とのサミットスポーツ交流が会場を持ち回りで開催されてきています。スポーツ少年団の大会として競技種目が同一ではありませんが、他の地域にはない交流として定着しています。

国際交流としては、町内少年野球チームが台湾のチームと交流しています。

2) スポーツフェスティバル in 柴田の充実

生涯スポーツの普及を目的とし、スポーツフェスティバル in 柴田が開催されています。仙台大学のスポーツ施設を活用した町民と学生との良い交流の機会となっています。

仙台大学との共催による行事として定着しており、「ラグ・ラグビー交流会」では隣の山形県からも参加がありました。これまでは、幼少年期（「キッズ・サッカー遊び」や「仙南地区卓球大会」等）と高齢期の方々向け（「親善ゲートボール大会」や「グラウンドゴルフ大会」等）の種目が多く開催されてきましたが、近年は仙台大学大学祭や東北子ども博と同時期に開催されることも多く、その影響からか「ポートエルゴマシン体験会」では老若男女の体験者も出てきています。また平成27年度は「テニス交流会」が新規で開催されました。

3) みやぎジュニア玉入れ選手権大会の開催

柴田町総合型地域スポーツクラブでは、平成27年度から子ども会を単位に「第1回みやぎジュニア玉入れ選手権大会」を開催しました。近隣2市7町にも周知し、スポーツ少年団に加入していない子ども達もできる競技を開催しました。

＜施策の方向性＞

- (1) 行政区毎、あるいは行政区対抗のスポーツ事業の実践を通してコミュニティの再構築に努めます。
- (2) 近隣市町村や諸外国とのスポーツ・文化・国際交流は継続していきますが、特定の団体や個人に偏ることがないように配慮していきます。
また、柴田町・仙台大学・白石市との協働により2020オリンピック・パラリンピック事前キャンプ等の招致体制を整備していきます。
- (3) 幼少年期、青年期、中年期、高齢期とあらゆる年代向けのスポーツ事業を展開するとともに、多世代の交流が生まれやすい事業を模索し実施していきます。
- (4) みやぎジュニア玉入れ選手権大会はすべての子どもが参加可能な毎年恒例の柴田町らしい事業として定着するよう支援していきます。



Ⅱ スポーツ活動を支えるスポーツ環境の整備

1. スポーツ関連組織体制の強化と各組織の連携

(1) 柴田町総合型地域スポーツクラブ（柴田町体育協会）の進展と中核化

<現状と課題>

小中学生が所属するスポーツクラブは、スポーツ少年団、学校運動部、民間スポーツクラブと様々ですが、非所属者は男子で35.8%、女子は50.7%、全体でも42.4%となっています。

高校生以上の全体では、柴田町体育協会所属の団体、民間のスポーツクラブ、町のスポーツ教室の順に多く参加しています。年代別では、60歳代から70歳代において「民間のスポーツクラブ」と「町のスポーツ教室」への参加が他世代と比べるとやや目立ちます。とはいえ、非参加者は全体で62.9%（男女差はあまりありません）、年代別では16～19歳が75.0%、20歳代では85.3%となっており、若い世代の組織的スポーツ活動への参加が少ないことが顕著となっています。

一方、多種目型スポーツクラブへの参加に肯定的な者は、小中学生全体では約7割のほり、男女とも学年が下がるほど希望割合が増加しています。高校生以上の肯定者の割合は全体では55%を超え、現在のスポーツ実施率などを勘案すると、潜在的希望者は多いといえます。「是非参加したい」との回答は、男女別では女性が、年代別では若年層ほど割合が多くなっていることから、その受け皿として、平成27年3月に柴田町総合型地域スポーツクラブが設立されました。仙台大学関係者や行政関係者らによる設立準備委員会が平成25年10月に発足し設立に寄与しました。柴田町体育協会の運営に基づく事業となりますが、設立2年目の平成28年度は、前年度からの継続5事業（ヨガ教室、エアロビクス教室、スポーツ広場教室、わくわく体験キャンプ、みやぎジュニア玉入れ大会）と新規事業が計画されています。継続事業の更なる充実と新規事業が順調に運営できるよう気を配りながら、まずはクラブ会員化が徐々に進むようにしていく必要があります。

<施策の方向性>

- (1) 若い世代の組織的スポーツ活動への参加が少ない現状と、多種目型スポーツクラブへの潜在的希望者は多いことから、柴田町総合型地域スポーツクラブ事業へ参加するよう働きかけます。
- (2) 柴田町総合型地域スポーツクラブの安定的な運営のため、柴田町体育協会の法人化に向けた調査・研究への支援を行います。

※参考：柴田町総合型地域スポーツクラブ検討委員会「スポーツに関するアンケート調査集計・分析—大人（16歳以上）の調査結果—」平成24年12月



(2) スポーツ指導者等組織の再編成とスポーツ指導推進体制の強化

<現状と課題>

1) スポーツ指導者バンク

スポーツ関係各種資格の取得状況が正確に把握できていないことから、地域の人的資源を発掘し、生涯スポーツ推進のため多様な町民のニーズに対応できる指導者を育成する必要があります。

表9 柴田町体育協会・柴田町総合型地域スポーツクラブ指導者バンク(H28.3.31 現在)

	競技種目	男性	女性	合計
1	ソフトボール	4	2	6
2	テニス	1	0	1
3	バレーボール	0	3	3
4	ビニールボール	4	0	4
5	グラウンド・ゴルフ	15	0	15
6	空手道	4	0	4
7	陸上競技	24	6	30
8	ラグビー	3	0	3
9	柔剣道	13	0	13
10	山岳	5	0	5
11	パークゴルフ	6	1	7
		79	12	91

＜施策の方向性＞

- (1) スポーツ関係各種資格の取得者数及び資格種類等を正確に把握した上で、必要に応じてさらに上級を目指し、資格取得者数を増すよう働きかけます。
- (2) スポーツに関わる指導者の発掘及び確保に努め、町民のニーズに応じた指導者を派遣できる体制づくりに取り組みます。

(3) 各種スポーツ団体間及び地域団体とのネットワークの構築及び強化

＜現状と課題＞

1) 柴田町体育協会

柴田町体育協会登録団体への若年層の加入者が少ないことにより会員の高齢化の傾向が見られます。

表 10 柴田町体育協会登録団体・人数一覧

	団体名	平成 26 年度登録人数
1	ソフトボール協会	505
2	バレーボール協会	190
3	パドミントン協会	118
4	卓球協会	90
5	ゲートボール協会	53
6	バスケットボール協会	79
7	ビニールボール協会	187
8	グラウンド・ゴルフ協会	217
9	空手道連盟	40
10	陸上競技協会	45
11	ラグビー協会	5
12	水泳協会	6
13	柔道協会	15
14	仙南柔剣道支部	68
15	ボブスレー協会	12
16	山岳協会	59
17	剣道協会	22
18	スポーツ少年団	675
19	ボート協会	73
20	テニス協会	27
21	パークゴルフ協会	86
22	スキー協会	(休会中)
23	野球協会	(休会中)
24	サッカー協会	(休会中)

2) 柴田町スポーツ少年団

柴田町スポーツ少年団登録団体数、登録者数も減少傾向にあります。

表 11 柴田町スポーツ少年団本部登録団体一覧(平成 27 年度)

	種目	団体数
1	野球	5
2	空手道	5
3	サッカー	4
4	バレーボール	3
5	バスケットボール	2
6	バドミントン	2
7	剣道	1
8	柔道	1
9	ラグビー	1
10	バトントワリング	1
	合計	25

< 施策の方向性 >

- (1) 柴田町体育協会や柴田町スポーツ少年団に所属する各団体間のネットワークや交流を促進します。



2. 多機能スポーツ施設等の効果・効率的な運用管理

<現状と課題>

(1) 既存体育・スポーツ施設の利活用

表 12 柴田町スポーツ施設の利用実績(平成 21 年度と平成 26 年度の比較)

スポーツ施設名	年度	利用件数	利用人数	稼働日数	利用日数	稼働率
船岡体育館	平成 21 年度	564	15,895	300	279	93.0%
	平成 26 年度	* 561	16,597	305	294	96.4%
槻木体育館	平成 21 年度	490	7,676	304	257	84.5%
	平成 26 年度	496	7,749	302	286	94.7%
町民体育館【注1】	平成 21 年度	219	6,735	304	192	63.2%
	—	—	—	—	—	—
柴田球場	平成 21 年度	157	7,874			
	平成 26 年度	208	13,610			
総合運動場	平成 21 年度	561	17,733			
	平成 26 年度	* 425	20,845			
並松運動場	平成 21 年度	381	9,173			
	平成 26 年度	416	10,724			
阿武隈川野球場	平成 21 年度	237	8,590			
	平成 26 年度	* 206	13,406			
阿武隈川多目的	平成 21 年度	718	27,084			
	平成 26 年度	* 572	* 25,323			
館山テニスコート	平成 21 年度	384	3,296			
	平成 26 年度	534	5,036			
人間田テニスコート	平成 21 年度	195	1,590			
	平成 26 年度	267	3,624			
葛岡山テニスコート	平成 21 年度	151	1,356			
	平成 26 年度	181	1,526			
総計	平成 21 年度	4,057	107,002			
	平成 26 年度	* 3,866	118,440			

*:平成 21 年度比で減少

【注1】：町民体育館は、平成 25 年3月 31 日閉鎖のため、利用実績なし。

柴田町公共スポーツ施設の利用実績について、震災前の平成 21 年度と最新の平成 26 年度との比較をしたところ、公共スポーツ施設の利活用の現況としては、町民体育館が利用できなくなったこともあってか全体の利用件数は減少していますが、利用人数に関しては平成 21 年度比 1.1 倍ほどの伸びをみせています。

町のスポーツ施設の利用状況は、男子の方が、また学年が上がるほど利用頻度が多くなっていますが、利用経験がない者は全体で 58.9%、女子で 63.1%、そして小学校 1～3 年生では 69.4%にものぼっています。高校生以上のスポーツ施設利用未経験者はさらに多く、全体で 76.9%、50 歳代以降ですとその割合は 8 割を超えてきます。若い世代がや利用していますが、利用頻度は年に数回程度にとどまっているのが現状です。

柴田町公共スポーツ施設の利用人数や稼働率の増加との兼ね合いでは、特定の人々の利用に偏っている可能性も推測できることから、町民の誰もが気軽に利用できる体制整備をさらに進める必要があります。

<施策の方向性>

(1) 柴田町内公共スポーツ施設の利用件数や稼働率は高い状況にありますが、幅広くより多くの町民の方々に利用してもらえよう効果・効率的な施設の運用管理体制を整備していきます。

(2) (仮称) 柴田町総合体育館の建設と円滑な運用

<現状と課題>

「(仮称) 柴田町総合体育館基本構想」(平成 27 年 10 月 21 日)に基づき関係委員や柴田町体育協会との意見交換会、また住民懇談会等を開催しました。

基本構想における基本方針は下記の通りです。

「(仮称) 柴田町総合体育館基本構想」における基本方針

【基本方針 1】「町民が生涯現役でスポーツを楽しめる体育館」

(1) 「するスポーツ」

- ① アリーナ
- ② 多目的運動場
- ③ トレーニングルーム
- ④ ランニングコース

(2) 「みるスポーツ」

- ① 各種大会等で参加する選手が控える場所、または家族友人が競技を観戦・応援できる観覧席を設置
- ② トイレ、ロッカールーム(特に女性)の十分な設備と設置数
- ③ 大会運営に必要な諸室

(3) 「支えるスポーツ」

- ① 会議室（指導者・資格取得・審判等の講習・研修会、スポーツ関係団体の会議等）

(4) 「総合型地域スポーツクラブの活動拠点」

- ① 事務室
- ② ミーティングルーム、サロン室
- ③ リハーサル室、多目的運動場、トレーニングルーム、ランニングコース

【基本方針2】「安心・安全な機能を備えた体育館」

- (1) 「災害時の避難拠点となる体育館」

【基本方針3】「文化的事業・イベントに使用できる体育館」

- (1) ステージ（移動式）
- (2) 音響設備

<施策の方向性>

- (1) 柴田町体育協会等のスポーツ関係団体と事前に施設の経営・管理に関する協議を重ね、（仮想）総合体育館整備後すみやかに円滑な運用が図れるよう推進していきます。
- (2) すでに実施されている公の施設の指定管理者制度の現状に鑑み、本推進計画期間中には建設が予定される（仮称）柴田町総合体育館の指定管理者制度化を念頭に調整、研究を行います。

資 料

資料1 柴田町スポーツ推進計画策定の経緯

資料2 柴田町スポーツ推進審議会委員名簿

資料3 柴田町スポーツ推進計画策定委員名簿

資料4 柴田町総合型地域スポーツクラブ検討委員会
「スポーツに関するアンケート調査結果」平成24年12月

柴田町スポーツ推進計画策定の経緯

項目	時期	会議概要
諮問	平成 26 年 7 月 31 日	柴田町教育委員会から柴田町スポーツ推進審議会
策定委員会の設置	平成 26 年 8 月 26 日	スポーツ基本法第 10 条第 1 項の規定に基づく
第 1 回策定委員会	平成 26 年 12 月 3 日	委嘱状の交付、委員長・副委員長の互選、経過等
第 2 回策定委員会	平成 27 年 3 月 11 日	策定スケジュール、基本方針、役割分担
第 3 回策定委員会	平成 27 年 4 月 27 日	重点施策、キーワードについて
第 4 回策定委員会	平成 27 年 6 月 24 日	骨子素案について
第 5 回策定委員会	平成 27 年 8 月 5 日	骨子素案について
第 6 回策定委員会	平成 27 年 10 月 14 日	計画書素案について
第 7 回策定委員会	平成 27 年 12 月 2 日	計画書素案について
審議会へ中間報告	平成 27 年 12 月 21 日	計画書素案（第 2 回スポーツ推進審議会）
第 8 回策定委員会	平成 28 年 2 月 18 日	スポーツ推進計画素案について
パブリックコメントの実施	平成 28 年 3 月 14 日～平成 28 年 3 月 25 日	
第 9 回策定委員会	平成 28 年 3 月 25 日	計画書（答申用）の校正
計画書案の報告	平成 28 年 3 月 30 日	計画書案（第 4 回柴田町スポーツ推進審議会）
計画書答申	平成 28 年 3 月 31 日	教育委員会へ答申

柴田町スポーツ推進審議会委員名簿

(平成28年3月現在)

No.	氏名	職名	所属	摘要
1	平間智美	柴田町バレーボール協会副理事長	柴田町体育協会	
2	半澤和茂	柴田町ソフトボール協会監事	柴田町体育協会	
3	鈴木省三	仙台大学教授	仙台大学	
4	仲野隆士	仙台大学教授	仙台大学	
5	大沼良子	スポーツ推進委員	柴田町スポーツ推進委員	
6	高橋利男	柴田町体育協会会長	柴田町体育協会	
7	鈴木均	船岡小学校校長	柴田町校長会	

会長	高橋利男
副会長	仲野隆士

柴田町スポーツ推進計画策定委員会委員名簿

(平成28年3月現在)

No.	氏名	職名	所属	摘要
1	櫻井正春	柴田町体育協会副会長	スポーツ団体関係者	3条1号
2	源光男	柴田町スポーツ少年団本部副本部長	スポーツ団体関係者	3条1号
3	吉田智弘	柴田町立槻木小学校主幹教諭	教育関係者	3条2号
4	星淳	柴田町立槻木中学校教諭	教育関係者	3条2号
5	平塚誠	宮城県柴田高等学校教諭	教育関係者	3条2号
6	大槻裕喜	柴田町スポーツ推進委員委員長	行政機関関係者	3条3号
7	半澤和茂	柴田町スポーツ推進審議会委員	行政機関関係者	3条3号
8	稲荷智康	柴田町社会福祉協議会主任	福祉関係者	3条4号
9	永田秀隆	仙台大学教授	学識経験者	3条5号
10	竹村英和	仙台大学准教授	学識経験者	3条5号

委員長	永田秀隆
副委員長	半澤和茂

小中学生の調査結果

1. 調査対象者

表 1) 調査対象者（性・学年・学校別内訳）

		船岡小	槻木小	船迫小	東船岡小	柴田小	西住小	船岡中	槻木中	船迫中	総計
全 体		176 16.9%	176 16.9%	140 13.5%	161 15.5%	63 6.1%	91 8.8%	80 7.7%	80 7.7%	72 6.9%	1039 100.0%
男 子		92 17.3%	86 16.2%	73 13.7%	85 16.0%	31 5.8%	44 8.3%	38 7.1%	44 8.3%	39 7.3%	532 100.0%
女 子		84 16.6%	90 17.8%	67 13.2%	76 15.0%	32 6.3%	47 9.3%	42 8.3%	36 7.1%	33 6.5%	507 100.0%
男 子	小学1～3年	45 22.7%	40 20.2%	42 21.2%	40 20.2%	9 4.5%	22 11.1%				198 100.0%
	小学4～6年	47 22.1%	46 21.6%	31 14.6%	45 21.1%	22 10.3%	22 10.3%				213 100.0%
	中学生	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	38 31.4%	44 36.4%	39 32.2%	121 100.0%
女 子	小学1～3年	46 22.5%	43 21.1%	35 17.2%	34 16.7%	18 8.8%	28 13.7%				204 100.0%
	小学4～6年	38 19.8%	47 24.5%	32 16.7%	42 21.9%	14 7.3%	19 9.9%				192 100.0%
	中学生	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	42 37.8%	36 32.4%	33 29.7%	111 100.0%

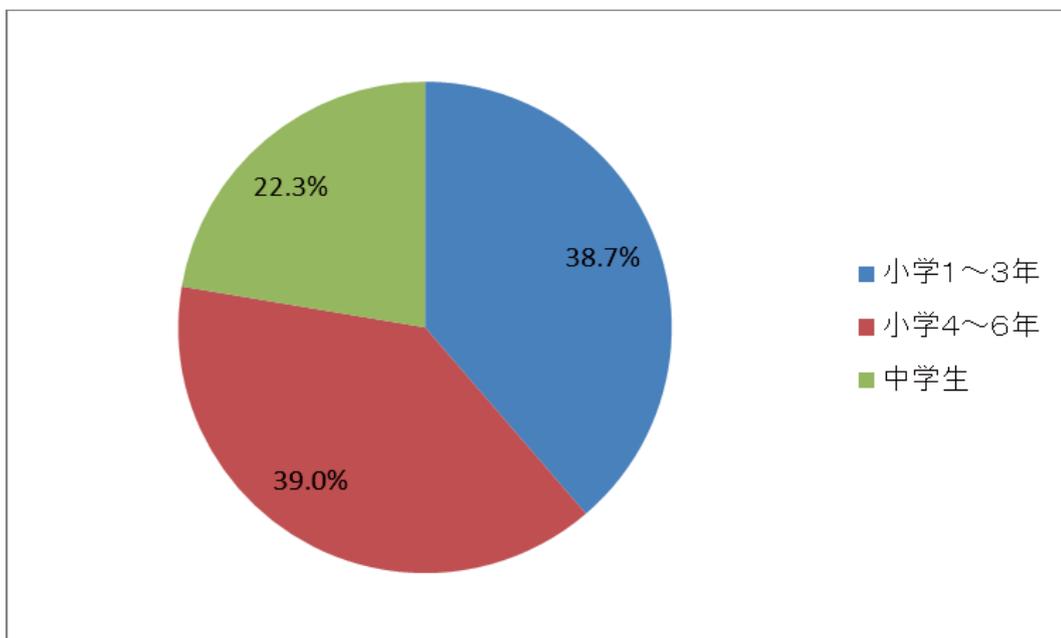


図 1) 調査対象者（学年別内訳）

2. 運動やスポーツの実施状況

表 2) 運動やスポーツの実施状況

		定期的に行っている	ときどきはしている	していない	総計
全 体		449 43.2%	374 36.0%	216 20.8%	1039 100.0%
男 子		282 53.0%	176 33.1%	74 13.9%	532 100.0%
女 子		167 32.9%	198 39.1%	142 28.0%	507 100.0%
男 子	小学1～3年	86 43.4%	78 39.4%	34 17.2%	198 100.0%
	小学4～6年	109 51.2%	75 35.2%	29 13.6%	213 100.0%
	中学生	87 71.9%	23 19.0%	11 9.1%	121 100.0%
女 子	小学1～3年	62 30.4%	91 44.6%	51 25.0%	204 100.0%
	小学4～6年	51 26.6%	85 44.3%	56 29.2%	192 100.0%
	中学生	54 48.6%	22 19.8%	35 31.5%	111 100.0%

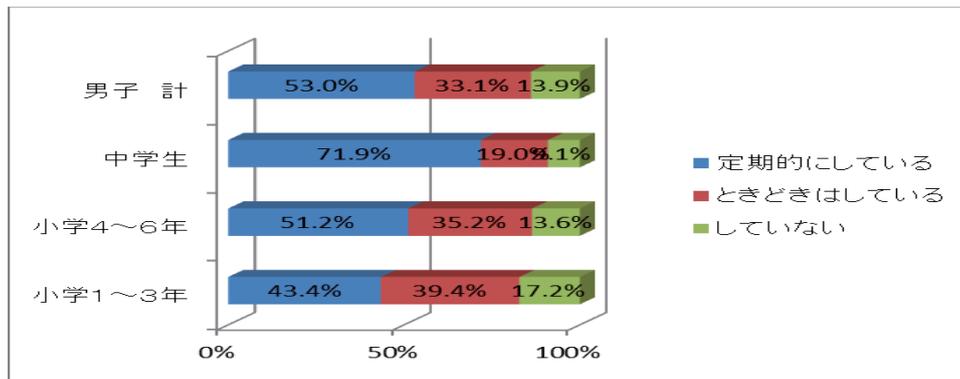


図 2-1) 運動やスポーツの実施状況 (男子)

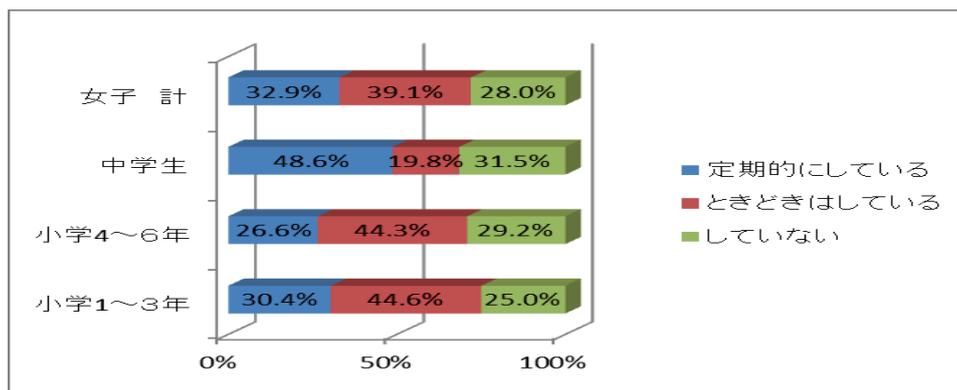


図 2-2) 運動やスポーツの実施状況 (女子)

全体では、約 8 割の子ども達が「定期的」あるいは「時々」運動やスポーツをしている。男女別では男子が、学年別では中学生が定期的によく運動をしている。しかし男子は学年が上がるに従いよく運動しているが、女子は「していない」割合も高くなり、運動をよくする生徒としない生徒の二極化減少が指摘できる。

3. 実施している運動やスポーツ種目

表3) 実施している運動やスポーツ種目（上位5種目）

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
男子 全体	サッカー 41.5%	野球 22.3%	その他 20.7%	スイミング 19.4%	ジョギング・ランニング 10.0%
小学1～3年	サッカー 46.7%	スイミング 29.9%	その他 18.3%	野球 14.0%	ジョギング・ランニング 9.8%
小学4～6年	サッカー 48.4%	野球 27.2%	その他 23.9%	スイミング 19.6%	ドッジボール 9.2%
中学生	野球 26.4%	サッカー 20.9%	その他 19.1%	ジョギング・ランニング 15.5%	卓球 14.5%
女子 全体	その他 25.8%	スイミング 24.4%	なわとび 19.2%	踊りやダンス 12.6%	ジョギング・ランニング 12.3%
小学1～3年	スイミング 30.7%	なわとび 27.5%	その他 20.9%	踊りやダンス 14.4%	ジョギング・ランニング ドッジボール 10.5%
小学4～6年	スイミング 29.4%	その他 28.7%	なわとび 16.9%	ジョギング・ランニング 14.0%	バレーボール 12.5%
中学生	その他 30.3%	バレーボール 筋力トレーニング 19.7%		テニス 15.8%	ジョギング・ランニング 13.2%

全体では、男子は「サッカー」「野球」「その他の種目」「スイミング」「ジョギング・ランニング」の順となった。女子は「その他の種目」「スイミング」「なわとび」「踊りやダンス」「ジョギング・ランニング」の順となった。

男子はサッカーと野球が各学年とも圧倒的に多い。女子は特定の種目が突出することなく、様々な種目を行っていることがわかる。また「スイミング」は男女とも小学生が中心といえる。

4. 運動やスポーツを始めたきっかけや続けている理由

表 4) 運動やスポーツを始めたきっかけや続けている理由

	体を動かすのが楽しいから	健康によいから	友達にさそわれたから	家族にすすめられたから	もっと上手になりたいから	いい記録や勝つとうれしいから	友達ができたいから	その他
全体 (N=823)	393 47.8%	109 13.2%	156 19.0%	173 21.0%	335 40.7%	129 15.7%	48 5.8%	98 11.9%
男子 (N=458)	227 49.6%	53 11.6%	98 21.4%	98 21.4%	193 42.1%	71 15.5%	26 5.7%	49 10.7%
女子 (N=365)	166 45.5%	56 15.3%	58 15.9%	75 20.5%	142 38.9%	58 15.9%	22 6.0%	49 13.4%
小学1～3年 (N=317)	167 52.7%	38 12.0%	51 16.1%	80 25.2%	126 39.7%	28 8.8%	21 6.6%	37 11.7%
小学4～6年 (N=320)	146 45.6%	47 14.7%	69 21.6%	74 23.1%	135 42.2%	47 14.7%	18 5.6%	33 10.3%
中学生 (N=186)	80 43.0%	24 12.9%	36 19.4%	19 10.2%	74 39.8%	54 29.0%	9 4.8%	28 15.1%

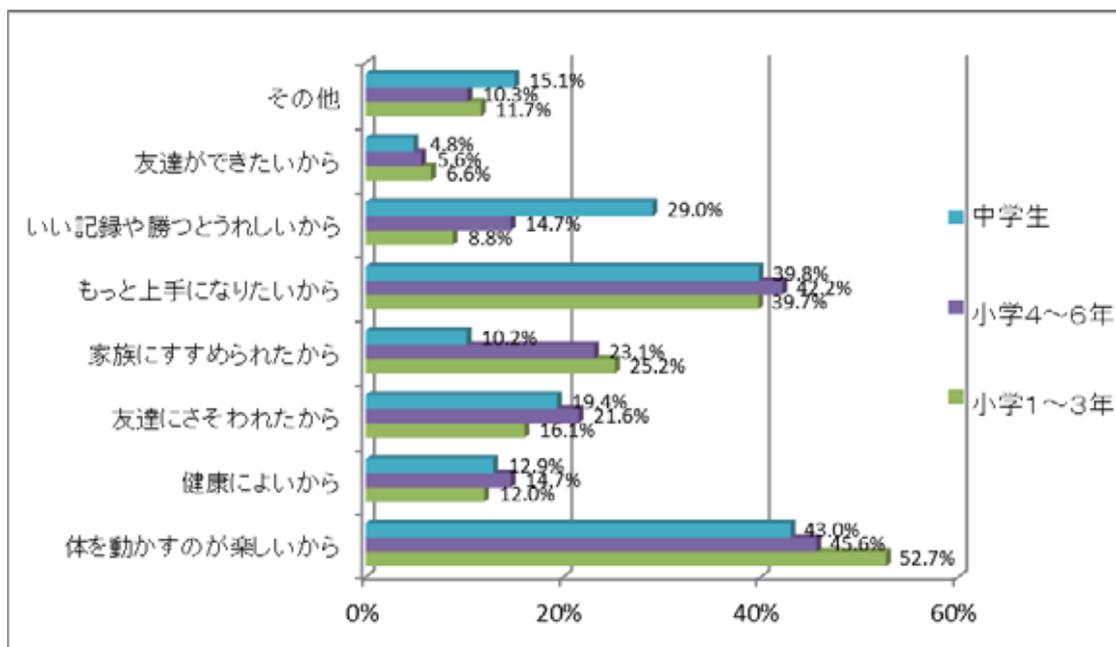


図 4) 運動やスポーツを始めたきっかけや続けている理由

運動やスポーツを始めたきっかけや続けている理由では、「体を動かすことが楽しいから」や「もっと上手になりたいから」が高く、次に「家族にすすめられたから」や「友達に誘われたから」が高い。

「体が動かすことが楽しいから」という理由は、小学校1～3年生ほど多く、特に女子の場合にはその傾向が顕著である。「もっと上手になりたいから」は、男子の場合、学年が上がるに従い高くなる傾向がある。「家族にすすめられたから」は、特に小学校1～3年生に、「友達に誘われたから」は小学校4～6年生に多くなっている。

「いい記録や勝つとうれしいから」という理由は、男女ともに学年が上がるに従い顕著に高くなっている。

5. 参加しているスポーツクラブや運動部

表 5) 参加しているスポーツクラブや運動部

	スポーツ少年団	学校の運動部	民間のスポーツクラブ	仙台大学のスポーツ教室	どこにも参加していない	その他
全体 (N=823)	156 19.0%	156 19.0%	140 17.0%	34 4.1%	349 42.4%	35 4.3%
男子 (N=458)	109 23.8%	97 21.2%	82 17.9%	20 4.4%	164 35.8%	20 4.4%
女子 (N=365)	47 12.9%	59 16.2%	58 15.9%	14 3.8%	185 50.7%	15 4.1%
小学1～3年 (N=317)	47 14.8%	5 1.6%	59 18.6%	23 7.3%	164 51.7%	14 4.4%
小学4～6年 (N=320)	93 29.1%	33 10.3%	63 19.7%	9 2.8%	135 42.2%	15 4.7%
中学生 (N=186)	16 8.6%	118 63.4%	18 9.7%	2 1.1%	50 26.9%	6 3.2%

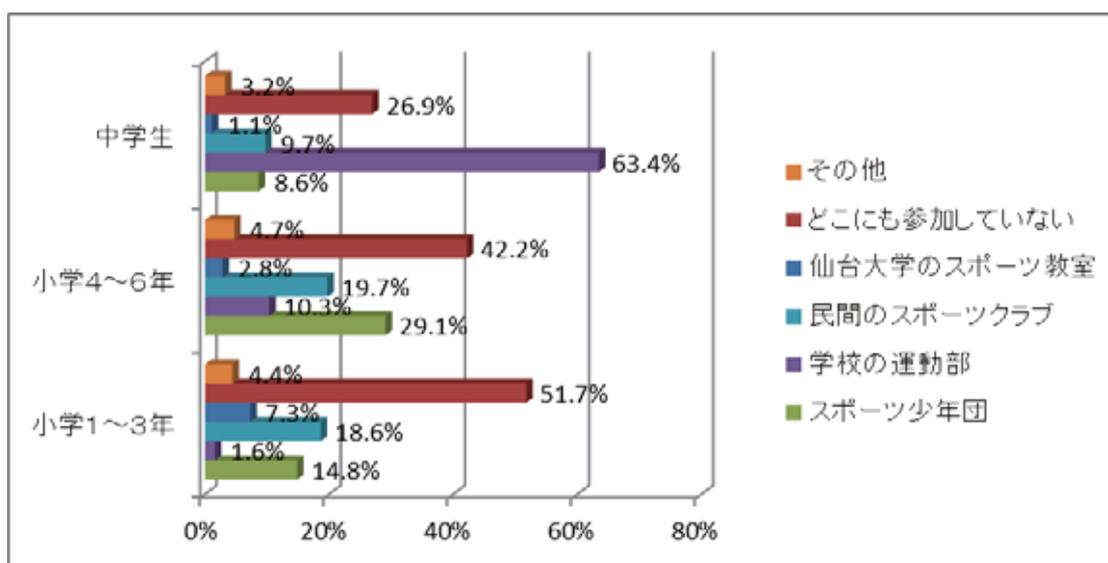


図 5) 参加しているスポーツクラブや運動部

小学校1～3年生、小学校4～6年生ともに「どこにも参加していない」割合が多いが、小学校4～6年生では「スポーツ少年団」の比率も高い。中学生では、男女とも、「学校の運動部」が突出している。

6. 現在実施しているスポーツ以外の希望種目

表 6) 現在実施しているスポーツ以外の希望種目

	いろいろな種目のスポーツもやってみたい	気軽にやれるスポーツもやってみたい	もう1種目ぐらいはやりたい	今やっているスポーツに集中したい	今やっているスポーツはもうやめたい
全 体 (N=823)	240 29.2%	184 22.4%	95 11.5%	254 30.9%	12 1.5%
男 子 (N=458)	132 28.8%	83 18.1%	52 11.4%	175 38.2%	3 0.7%
女 子 (N=365)	108 29.6%	101 27.7%	43 11.8%	79 21.6%	9 2.5%
小学1～3年 (N=317)	104 32.8%	65 20.5%	50 15.8%	80 25.2%	3 0.9%
小学4～6年 (N=320)	87 27.2%	71 22.2%	30 9.4%	106 33.1%	9 2.8%
中学生 (N=186)	49 26.3%	48 25.8%	15 8.1%	68 36.6%	0 0.0%

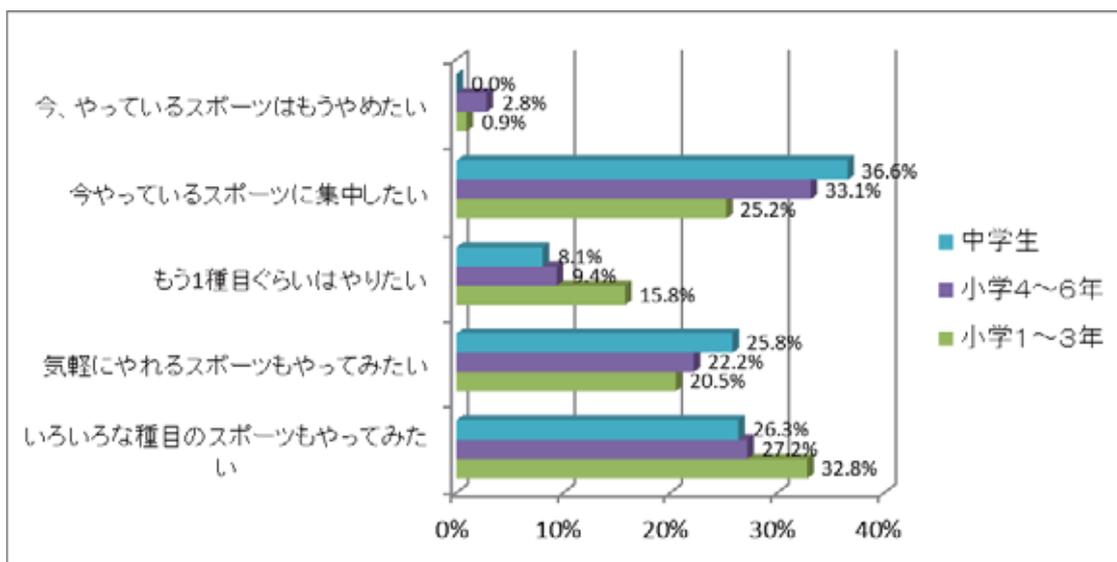


図 6) 現在実施しているスポーツ以外の希望種目

現在実施しているスポーツ以外の希望種目では、学年による違いが多く見られる。

最も多い「今やっているスポーツに集中したい」は学年が上がるに従い高くなり、次に多い理由の「いろいろな種目のスポーツもやってみたい」は小学校1～3年生ほど高くなっている。

また「気軽にやれるスポーツもやってみたい」は小学校4～6年生ほど、逆に「もう1種目ぐらいはやりたい」は小学校1～3年生ほど、その理由が高くなっている。

7. 運動やスポーツをしない理由

表 7) 運動やスポーツをしない理由

	体を動かすのが嫌いだから	けがをするのが心配だから	うまくできないから	疲れるから	塾や用事があって時間がない	友達と一緒にでないから	スポーツのできる所がないから	スポーツをする場所が遠いから	家の人が許可しないから	その他
全体 (N=216)	50 23.1%	13 6.0%	43 19.9%	54 25.0%	54 25.0%	37 17.1%	32 14.8%	25 11.6%	13 6.0%	34 15.7%
男子 (N=74)	21 28.4%	5 6.8%	14 18.9%	17 23.0%	6 8.1%	16 21.6%	8 10.8%	11 14.9%	6 8.1%	12 16.2%
女子 (N=142)	29 20.4%	8 5.6%	29 20.4%	37 26.1%	48 33.8%	21 14.8%	24 16.9%	14 9.9%	7 4.9%	22 15.5%
小学1～3年 (N=85)	17 20.0%	8 9.4%	17 20.0%	18 21.2%	15 17.6%	17 20.0%	16 18.8%	18 21.2%	7 8.2%	15 17.6%
小学4～6年 (N=85)	20 23.5%	3 3.5%	19 22.4%	22 25.9%	20 23.5%	17 20.0%	10 11.8%	5 5.9%	6 7.1%	11 12.9%
中学生 (N=46)	13 28.3%	2 4.3%	7 15.2%	14 30.4%	19 41.3%	3 6.5%	6 13.0%	2 4.3%	0 0.0%	8 17.4%

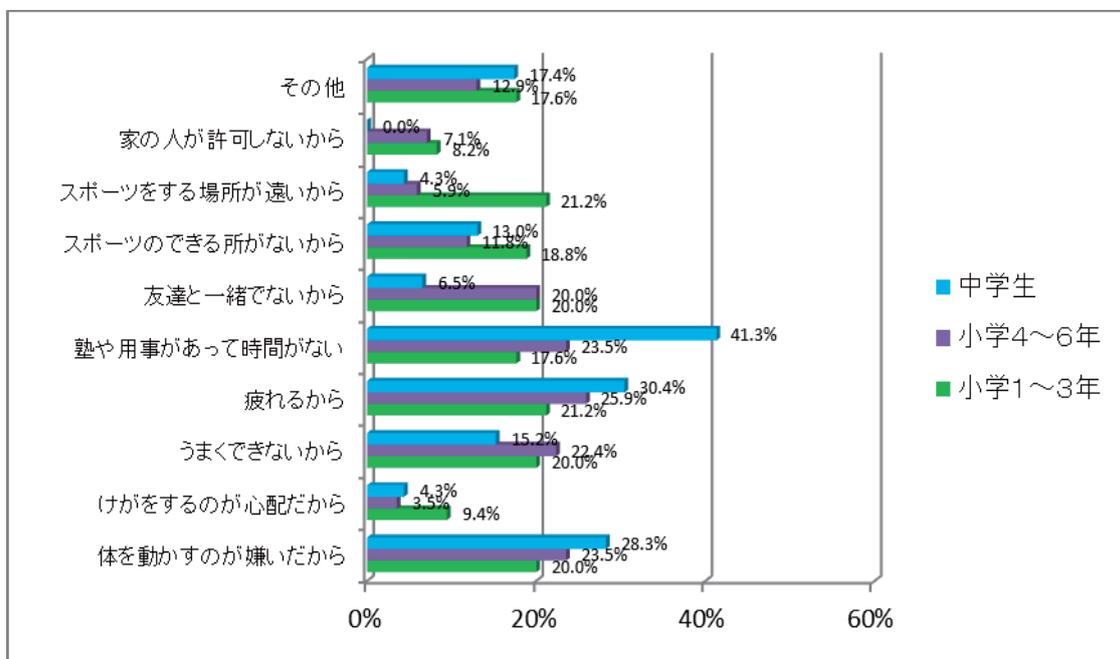


図 7) 運動やスポーツをしない理由

運動やスポーツをしない理由では、全体では、「疲れるから」「塾や用事があって時間がない」「体を動かすのが嫌いだから」「うまくできないから」「友達と一緒にでないから」などが高くなっている。

男女や学年で大きな違いが出たのは、「塾や用事があって時間がない」は女子および小学校4～6年生で大きな理由となっている。特に中学生の女子は約半数近くが回答している。

また「体を動かすのが嫌いだから」は男子、特に中学生男子が高くなっている。「疲れるから」も小学校4～6年生ほど高い傾向にある。「友達と一緒にでないから」は小学生に回答が集中している。「スポーツのできる所がないから」「スポーツをする場所が遠いから」という場所の問題では、小学校1～3年生からの回答が多くなっている。

8. 今後の実施希望種目

表 8) 今後の実施希望種目（上位 5 種目）

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
男子 全体	サッカー 22.4%	野球 16.7%	パソコン等のゲーム 15.0%	バスケットボール 13.0%	卓球 12.6%
小学1～3年	サッカー 34.3%	野球 20.7%	パソコン等のゲーム 13.1%	バスケットボール 11.6%	スイミング・水中ト レーニング 10.6%
小学4～6年	サッカー 18.8%	バスケットボール 18.3%	パソコン等のゲーム 17.4%	テニス 14.1%	野球 13.6%
中学生	テニス 21.5%	野球 15.7%	特になし 14.9%	パソコン等のゲーム 14.0%	サッカー/卓球 9.1%
女子 全体	バドミントン 24.1%	踊りやダンス 22.3%	スイミング・水中ト レーニング 15.4%	手芸・茶道・生花・ 菊花作り 14.4%	テニス 12.4%
小学1～3年	踊りやダンス 25.0%	スイミング・水中ト レーニング 24.0%	バドミントン 21.1%	テニス パソコン等のゲーム 10.8%	
小学4～6年	バドミントン 32.3%	手芸・茶道・生花・ 菊花作り 18.8%	踊りやダンス 14.1%	スイミング・水中ト レーニング 12.5%	バスケットボール 12.0%
中学生	踊りやダンス 31.5%	バスケットボール 手芸・茶道・生花・菊花作り 19.8%		テニス 18.0%	バドミントン 15.3%

今後の実施希望種目は、男子ではサッカーや野球は相変わらず人気は高いが、3の「現在実施している運動やスポーツ」と比較すると、小学生の「バスケットボール」や中学生の「テニス」の希望が高い。

同様に、女子も現在の実施種目と比較すると大きな違いが見られる。現在はあまり行われていない「バドミントン」や「踊りやダンス」の回答がいずれの学年でも多く、また小学校4～6年生や中学生では「バスケットボール」の回答も高くなっている。

これらの種目に対する対応や配慮が必要である。

9. 多項目型スポーツクラブへの参加希望

表 9) 多項目型スポーツクラブへの参加希望

	是非参加したい	できれば参加したい	忙しくて参加できないと思う	参加しない	総計
全体	281 27.5%	438 42.9%	114 11.2%	188 18.4%	1021 100.0%
男子	159 30.3%	218 41.5%	52 9.9%	96 18.3%	525 100.0%
女子	122 24.6%	220 44.4%	62 12.5%	92 18.5%	496 100.0%
小学1～3年	135 34.3%	180 45.7%	17 4.3%	62 15.7%	394 100.0%
小学4～6年	102 25.5%	179 44.8%	46 11.5%	73 18.3%	400 100.0%
中学生	44 19.4%	79 34.8%	51 22.5%	53 23.3%	227 100.0%

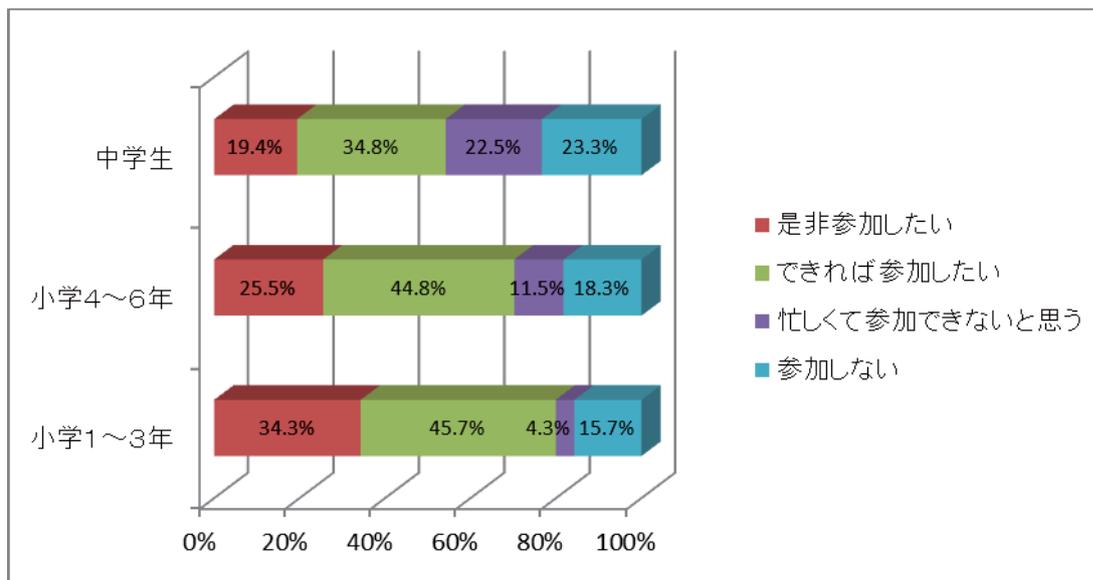


図 9) 多項目型スポーツクラブへの参加希望

多項目型スポーツクラブへの参加希望では、男女とも、小学校1～3年生ほど参加希望が高い。中学生では「忙しくて参加できないと思う」および「参加しない」を合わせると46%程度になっている。

全国の総合型地域スポーツクラブでも、中学生と高校生の参加率は低くなっており、同様の結果といえる。

10. 町のスポーツ施設の利用状況

表 10) 町のスポーツ施設の利用状況

	1年間に 10回以上	1年間に 数回程度	まったく ない	総計
全 体	160 15.7%	258 25.4%	598 58.9%	1016 100.0%
男 子	104 20.0%	131 25.2%	285 54.8%	520 100.0%
女 子	56 11.3%	127 25.6%	313 63.1%	496 100.0%
小学1～3年	30 7.7%	90 23.0%	272 69.4%	392 100.0%
小学4～6年	67 16.8%	82 20.6%	249 62.6%	398 100.0%
中学生	63 27.9%	86 38.1%	77 34.1%	226 100.0%

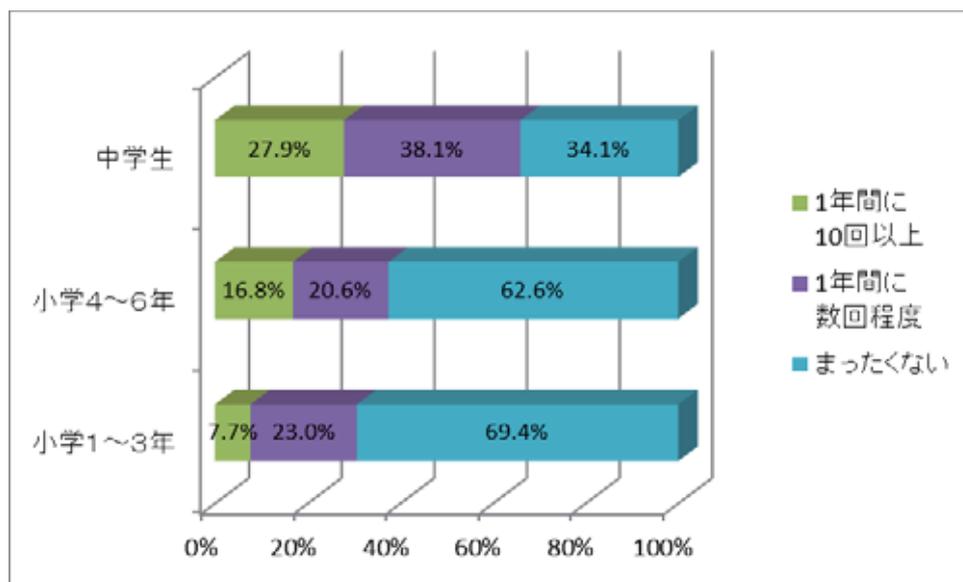


図 10) 町のスポーツ施設の利用状況

町のスポーツ施設の利用では、男子の方が、また小学校4～6年生ほど利用されていることがわかる。

大人(16歳以上)の調査結果

1. 調査対象者

表1) 調査対象者(性・年代・調査学校別内訳)

		船岡小	槻木小	船迫小	東船岡小	柴田小	西住小	船岡中	槻木中	船迫中	仙台大	総計
全 体		335 16.6%	303 15.1%	244 12.1%	290 14.4%	112 5.6%	167 8.3%	171 8.5%	198 9.8%	142 7.1%	51 2.5%	2013 100.0%
男 性		145 17.6%	117 14.2%	97 11.7%	117 14.2%	44 5.3%	71 8.6%	70 8.5%	86 10.4%	55 6.7%	24 2.9%	826 100.0%
女 性		190 16.0%	186 15.7%	147 12.4%	173 14.6%	68 5.7%	96 8.1%	101 8.5%	112 9.4%	87 7.3%	27 2.3%	1187 100.0%
男 性	16~19歳	8 12.9%	6 9.7%	9 14.5%	2 3.2%	2 3.2%	4 6.5%	9 14.5%	11 17.7%	11 17.7%	0 0.0%	62 100.0%
	20歳代	3 6.0%	6 12.0%	2 4.0%	5 10.0%	1 2.0%	2 4.0%	3 6.0%	2 4.0%	2 4.0%	24 48.0%	50 100.0%
	30歳代	64 23.4%	40 14.7%	44 16.1%	41 15.0%	11 4.0%	29 10.6%	11 4.0%	22 8.1%	11 4.0%	0 0.0%	273 100.0%
	40歳代	45 16.5%	40 14.7%	26 9.6%	43 15.8%	14 5.1%	21 7.7%	31 11.4%	33 12.1%	19 7.0%	0 0.0%	272 100.0%
	50歳代	10 15.6%	8 12.5%	5 7.8%	9 14.1%	4 6.3%	6 9.4%	9 14.1%	5 7.8%	8 12.5%	0 0.0%	64 100.0%
	60歳代	10 16.9%	10 16.9%	6 10.2%	8 13.6%	8 13.6%	6 10.2%	3 5.1%	8 13.6%	0 0.0%	0 0.0%	59 100.0%
	70歳代	5 10.9%	7 15.2%	5 10.9%	9 19.6%	4 8.7%	3 6.5%	4 8.7%	5 10.9%	4 8.7%	0 0.0%	46 100.0%
	女 性	16~19歳	11 14.1%	14 17.9%	11 14.1%	5 6.4%	2 2.6%	7 9.0%	10 12.8%	6 7.7%	12 15.4%	0 0.0%
20歳代		7 9.7%	3 4.2%	9 12.5%	6 8.3%	1 1.4%	9 12.5%	5 6.9%	2 2.8%	3 4.2%	27 37.5%	72 100.0%
30歳代		83 18.3%	69 15.2%	63 13.9%	81 17.8%	28 6.2%	44 9.7%	21 4.6%	44 9.7%	21 4.6%	0 0.0%	454 100.0%
40歳代		59 16.3%	66 18.2%	38 10.5%	39 10.8%	16 4.4%	22 6.1%	47 13.0%	40 11.0%	35 9.7%	0 0.0%	362 100.0%
50歳代		6 9.0%	8 11.9%	9 13.4%	13 19.4%	10 14.9%	4 6.0%	5 7.5%	5 7.5%	7 10.4%	0 0.0%	67 100.0%
60歳代		17 18.1%	16 17.0%	14 14.9%	15 16.0%	6 6.4%	5 5.3%	7 7.4%	10 10.6%	4 4.3%	0 0.0%	94 100.0%
70歳代		7 11.7%	10 16.7%	3 5.0%	14 23.3%	5 8.3%	5 8.3%	6 10.0%	5 8.3%	5 8.3%	0 0.0%	60 100.0%

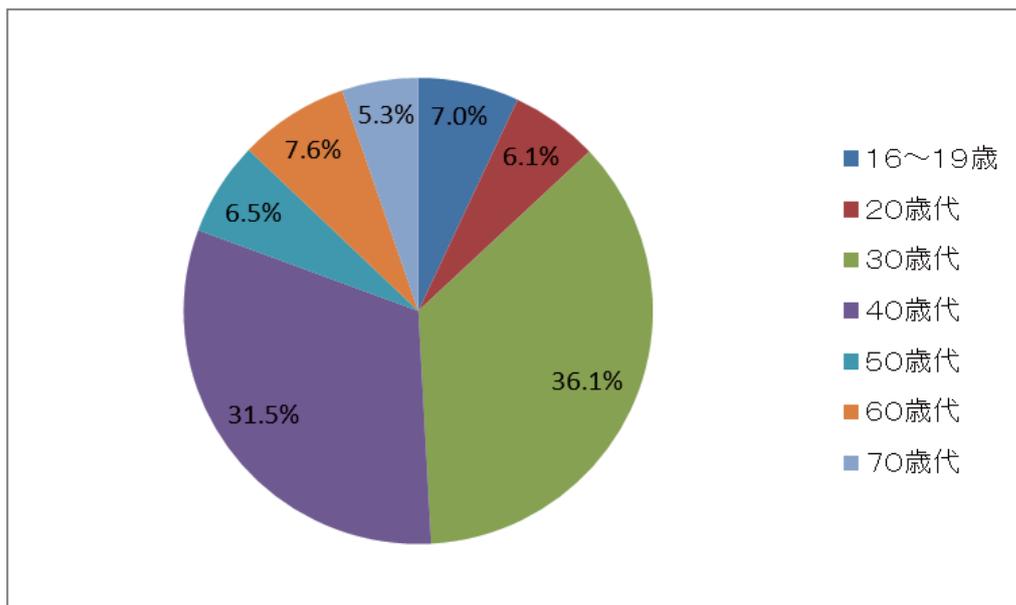


図1) 調査対象者(年代別内訳)

2. 居住地区

表 2) 居住地区

		船岡小	船迫小	東船岡小	槻木小	柴田小	西住小	総計
全 体		478	395	359	475	139	167	2013
		23.7%	19.6%	17.8%	23.6%	6.9%	8.3%	100.0%
男 性		200	155	152	191	57	71	826
		24.2%	18.8%	18.4%	23.1%	6.9%	8.6%	100.0%
女 性		278	240	207	284	82	96	1187
		23.4%	20.2%	17.4%	23.9%	6.9%	8.1%	100.0%
男 性	16～19歳	12	20	7	17	2	4	62
		19.4%	32.3%	11.3%	27.4%	3.2%	6.5%	100.0%
	20歳代	22	5	10	8	3	2	50
		44.0%	10.0%	20.0%	16.0%	6.0%	4.0%	100.0%
	30歳代	70	56	46	57	15	29	273
		25.6%	20.5%	16.8%	20.9%	5.5%	10.6%	100.0%
	40歳代	62	45	58	69	17	21	272
	22.8%	16.5%	21.3%	25.4%	6.3%	7.7%	100.0%	
女 性	50歳代	14	13	14	12	5	6	64
		21.9%	20.3%	21.9%	18.8%	7.8%	9.4%	100.0%
	60歳代	13	6	8	18	8	6	59
		22.0%	10.2%	13.6%	30.5%	13.6%	10.2%	100.0%
	70歳代	7	10	9	10	7	3	46
		15.2%	21.7%	19.6%	21.7%	15.2%	6.5%	100.0%
	16～19歳	17	23	8	19	4	7	78
	21.8%	29.5%	10.3%	24.4%	5.1%	9.0%	100.0%	
女 性	20歳代	31	16	10	5	1	9	72
		43.1%	22.2%	13.9%	6.9%	1.4%	12.5%	100.0%
	30歳代	100	84	86	109	31	44	454
		22.0%	18.5%	18.9%	24.0%	6.8%	9.7%	100.0%
	40歳代	85	74	59	101	21	22	362
		23.5%	20.4%	16.3%	27.9%	5.8%	6.1%	100.0%
	50歳代	10	16	14	12	11	4	67
	14.9%	23.9%	20.9%	17.9%	16.4%	6.0%	100.0%	
女 性	60歳代	24	18	15	25	7	5	94
		25.5%	19.1%	16.0%	26.6%	7.4%	5.3%	100.0%
女 性	70歳代	11	9	15	13	7	5	60
		18.3%	15.0%	25.0%	21.7%	11.7%	8.3%	100.0%

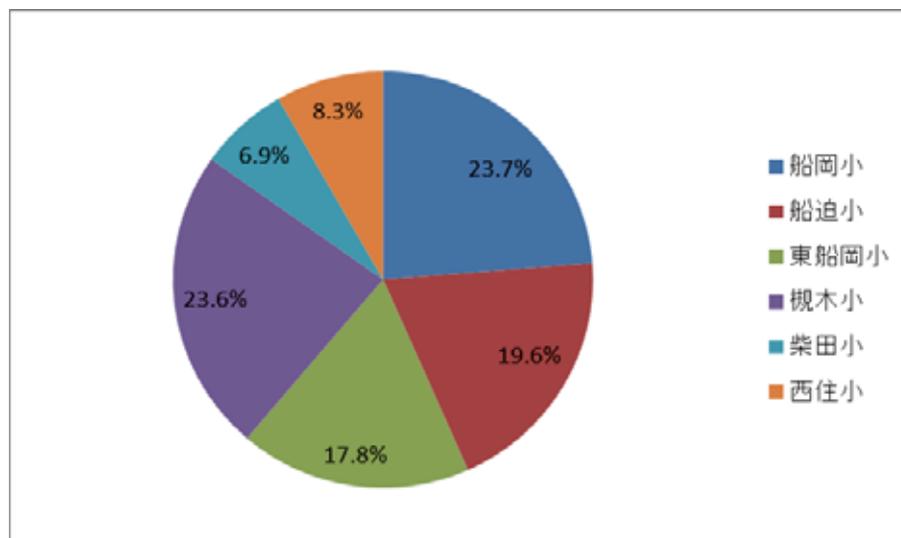


図 2) 居住地区

3. 運動やスポーツの実施状況

表 3) 運動やスポーツの実施状況

		定期的に している	時々 している	ほとんど していない	総計
全 体		331 16.4%	375 18.6%	1307 64.9%	2013 100.0%
男 性		153 18.5%	207 25.1%	466 56.4%	826 100.0%
女 性		178 15.0%	168 14.2%	841 70.9%	1187 100.0%
男 性	16～19歳	24 38.7%	17 27.4%	21 33.9%	62 100.0%
	20歳代	19 38.0%	14 28.0%	17 34.0%	50 100.0%
	30歳代	46 16.8%	55 20.1%	172 63.0%	273 100.0%
	40歳代	36 13.2%	92 33.8%	144 52.9%	272 100.0%
	50歳代	5 7.8%	18 28.1%	41 64.1%	64 100.0%
	60歳代	11 18.6%	7 11.9%	41 69.5%	59 100.0%
	70歳代	12 26.1%	4 8.7%	30 65.2%	46 100.0%
女 性	16～19歳	21 26.9%	14 17.9%	43 55.1%	78 100.0%
	20歳代	22 30.6%	13 18.1%	37 51.4%	72 100.0%
	30歳代	64 14.1%	62 13.7%	328 72.2%	454 100.0%
	40歳代	28 7.7%	51 14.1%	283 78.2%	362 100.0%
	50歳代	7 10.4%	8 11.9%	52 77.6%	67 100.0%
	60歳代	22 23.4%	17 18.1%	55 58.5%	94 100.0%
	70歳代	14 23.3%	3 5.0%	43 71.7%	60 100.0%

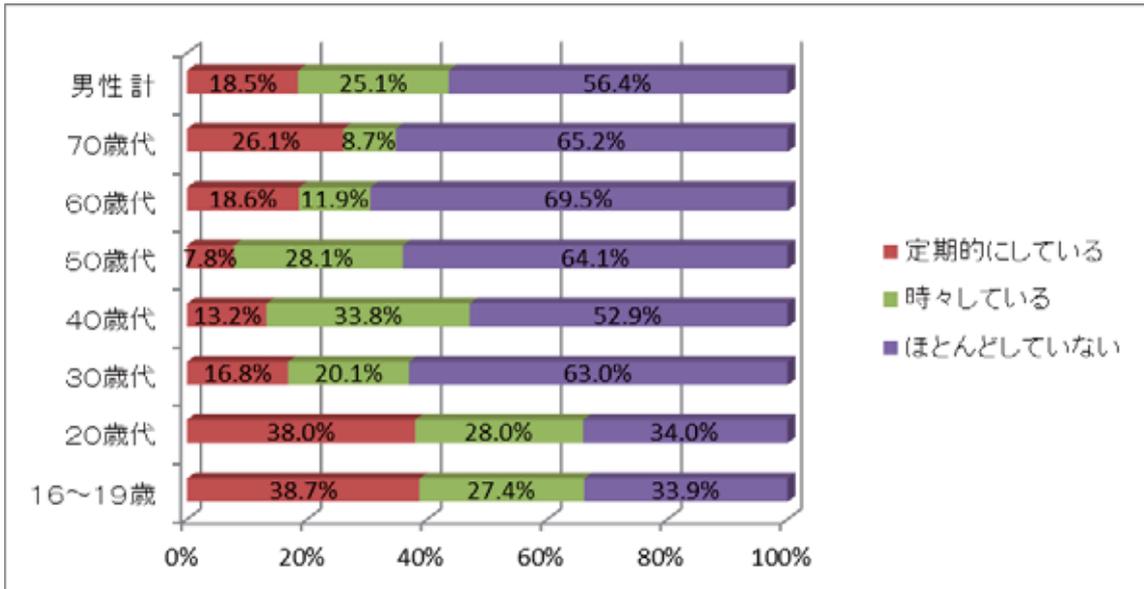


図 3-1) 運動やスポーツの実施状況（男性）

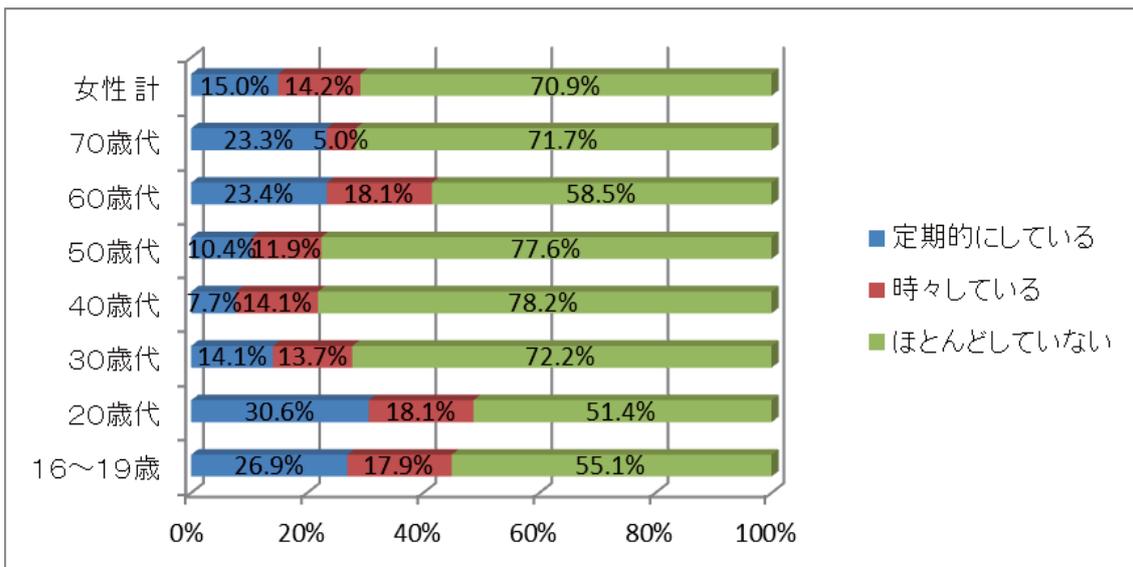


図 3-2) 運動やスポーツの実施状況（女性）

全体では、16%の町民が「定期的」に、19%が「時々」運動やスポーツを行っているが、65%の町民は「ほとんどしていない」との回答である。単純に比較は出来ないが、全国調査（内閣府「体力・スポーツに関する世論調査（2009）」では、成人の「週1回以上の定期的スポーツ参加者」は約45%であり、本調査では成人町民（16～19歳を除く）の「定期的に行っている」割合は15.3%であり、非常に少ないといえる。

特に30歳代から50歳代の中年層の運動・スポーツ実施が課題といえる。

4. 実施している運動やスポーツ種目

表 4) 実施している運動やスポーツ種目（上位 5 種目）

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
男性 全体	ウォーキング・ランニング 31.4%	その他 26.9%	野球・ソフトボール 24.7%	筋力トレーニング 19.2%	サッカー 11.9%
16～19歳	その他 26.8%	バスケットボール 22.0%	野球・ソフトボール 筋力トレーニング 19.5%		テニス 17.1%
20歳代	筋力トレーニング 33.3%	ウォーキング・ランニング 27.3%	野球・ソフトボール 24.4%	柔道・剣道 21.2%	サッカー/バレーボール その他 18.2%
30歳代	野球・ソフトボール 35.6%	ウォーキング・ランニング その他 23.8%		筋力トレーニング 21.8%	サッカー 16.8%
40歳代	ウォーキング・ランニング 49.0%	その他 40.0%	野球・ソフトボール 21.1%	筋力トレーニング 15.6%	サッカー 9.4%
50歳代	ウォーキング・ランニング 47.8%	野球・ソフトボール その他 30.4%		テニス 筋力トレーニング 8.7%	
60歳代	ウォーキング・ランニング 55.6%	卓球 22.2%		水泳・水中トレーニング 筋力トレーニング/その他 16.7%	
70歳代	ウォーキング・ランニング その他 37.5%		卓球/筋力トレーニング 18.8%		サッカー 野球・ソフトボール 縄跳び/水泳・水中トレーニング/テニス 6.3%
女性 全体	ウォーキング・ランニング 28.0%	その他 25.7%	バレーボール 24.0%	筋力トレーニング 16.8%	踊りやダンス 11.0%
16～19歳	筋力トレーニング 31.4%	その他 22.9%	バスケットボール ウォーキング・ランニング 17.1%		野球・ソフトボール 柔道・剣道/踊りやダンス 11.4%
20歳代	バレーボール 51.4%	ウォーキング・ランニング 25.7%	筋力トレーニング 22.9%	その他 17.1%	野球・ソフトボール 11.4%
30歳代	バレーボール 28.6%	ウォーキング・ランニング 25.4%	その他 23.0%	筋力トレーニング 15.1%	水泳・水中トレーニング 11.9%
40歳代	その他 34.2%	バスケットボール 29.1%	ウォーキング・ランニング 24.1%	水泳・水中トレーニング 12.7%	筋力トレーニング 8.9%
50歳代	ウォーキング・ランニング 33.3%	筋力トレーニング その他 20.0%		水泳・水中トレーニング バレーボール/踊りやダンス 13.3%	
60歳代	ウォーキング・ランニング 48.7%	踊りやダンス 30.8%	その他 28.2%	筋力トレーニング 15.4%	水泳・水中トレーニング 12.8%
70歳代	ウォーキング・ランニング 41.2%	その他 29.4%	筋力トレーニング 23.5%	水泳・水中トレーニング 卓球 11.8%	

全体では、男女とも 1 位は「ウォーキング・ランニング」、2 位は「その他のスポーツ」、3 位は男性「野球・ソフトボール」、女性「バレーボール」、4 位は男女ともに「筋力トレーニング」の順となった。

全国調査では、男女とも、第 1 位「ウォーキング」、2 位「体操」、3 位「ボウリング」、以下、男性は「ゴルフ」「ジョギング」、女性は「テニス」「バドミントン」「卓球」等となっている。本調査では「ウォーキング」以外の種目は「その他」に入っていることが予想され、全国調査ともあまり変わらない結果といえる。

5. 運動やスポーツを始めたきっかけや続けている理由

表 5) 運動やスポーツを始めたきっかけや続けている理由

	体を動かすのが楽しい	健康や体力の維持(美容・減量含む)	職場や町内会の友達に誘われた	家族に勧められた	学生時代に経験したから	技術の向上や大会などへの出場	ストレス解消	友人や仲間との交流や家族とのふれあい	その他
全体 (N=706)	274 38.8%	358 50.7%	75 10.6%	20 2.8%	126 17.8%	70 9.9%	129 18.3%	141 20.0%	41 5.8%
男性 (N=360)	123 34.2%	179 49.7%	43 11.9%	8 2.2%	78 21.7%	45 12.5%	62 17.2%	75 20.8%	23 6.4%
女性 (N=346)	151 43.6%	179 51.7%	32 9.2%	12 3.5%	48 13.9%	25 7.2%	67 19.4%	66 19.1%	18 5.2%
16~19歳 (N=76)	39 51.3%	22 28.9%	0 0.0%	5 6.6%	17 22.4%	19 25.0%	9 11.8%	14 18.4%	8 10.5%
20歳代 (N=68)	41 60.3%	21 30.9%	5 7.4%	5 7.4%	17 25.0%	18 26.5%	2 2.9%	8 11.8%	6 8.8%
30歳代 (N=227)	94 41.4%	109 48.0%	26 11.5%	3 1.3%	44 19.4%	16 7.0%	50 22.0%	41 18.1%	11 4.8%
40歳代 (N=207)	65 31.4%	109 52.7%	25 12.1%	4 1.9%	41 19.8%	9 4.3%	49 23.7%	47 22.7%	12 5.8%
50歳代 (N=38)	11 28.9%	22 57.9%	6 15.8%	1 2.6%	3 7.9%	3 7.9%	9 23.7%	6 15.8%	1 2.6%
60歳代 (N=57)	17 29.8%	48 84.2%	8 14.0%	2 3.5%	4 7.0%	1 1.8%	8 14.0%	16 28.1%	0 0.0%
70歳代 (N=33)	7 21.2%	27 81.8%	5 15.2%	0 0.0%	0 0.0%	4 12.1%	2 6.1%	9 27.3%	3 9.1%

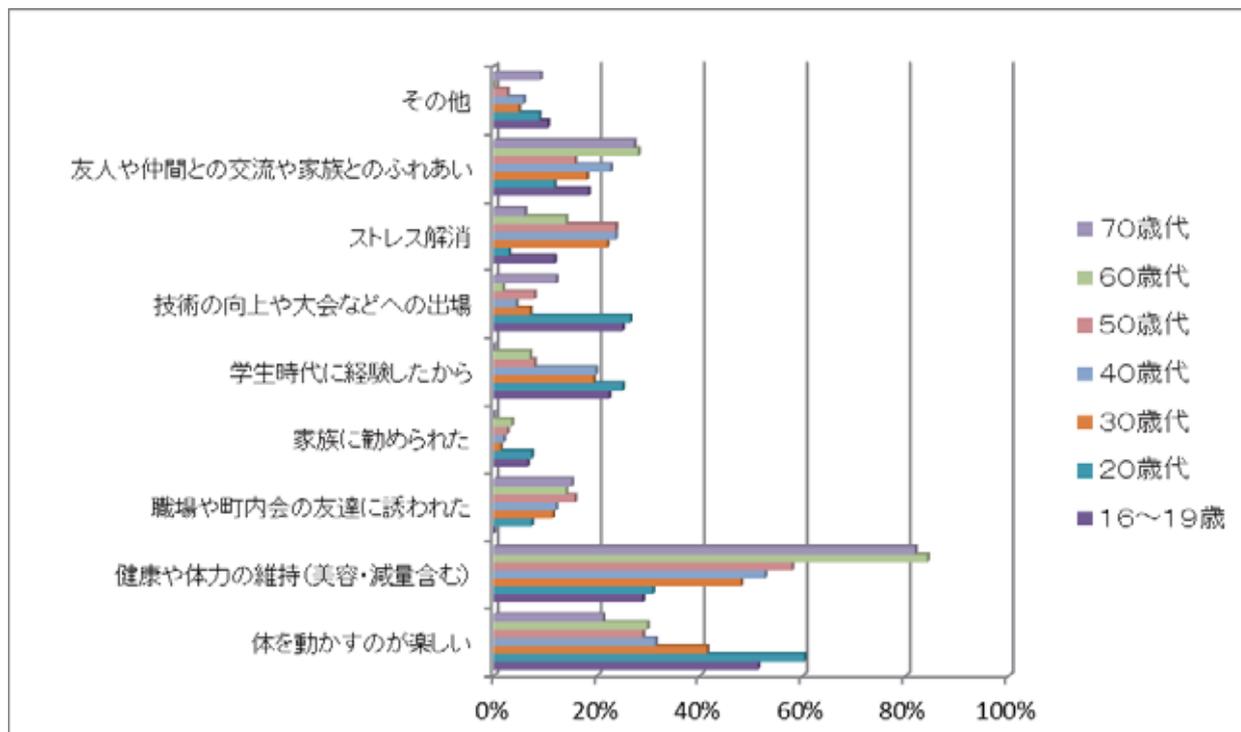


図 5) 運動やスポーツを始めたきっかけや続けている理由

運動やスポーツを始めたきっかけや続けている理由では、全体では「健康や体力の維持」「体を動かすのが楽しい」「友人や仲間との交流や家族とのふれあい」「ストレス解消」などが高い。「健康や体力の維持」は年代が高いほど、「体を動かすのが楽しい」は若年層ほど高くなっている。「ストレス解消」は中年層で高い結果となっている。

6. 参加している町の講座やスポーツクラブ

表 6) 参加している町の講座やスポーツクラブ

	町のスポーツ 教室	社協や文化協 会などの軽ス ポーツ教室	民間のスポー ツクラブ	仙台大学のス ポーツ教室	町体育協会所 属の団体	その他	どこにも参加し ていない
全体 (N=706)	36 5.1%	20 2.8%	72 10.2%	6 0.8%	78 11.0%	40 5.7%	444 62.9%
男性 (N=360)	10 2.8%	3 0.8%	34 9.4%	3 0.8%	33 9.2%	27 7.5%	238 66.1%
女性 (N=346)	26 7.5%	17 4.9%	38 11.0%	3 0.9%	45 13.0%	13 3.8%	206 59.5%
16～19歳 (N=76)	3 3.9%	0 0.0%	5 6.6%	2 2.6%	1 1.3%	9 11.8%	57 75.0%
20歳代 (N=68)	1 1.5%	1 1.5%	2 2.9%	1 1.5%	5 7.4%	2 2.9%	58 85.3%
30歳代 (N=227)	12 5.3%	2 0.9%	25 11.0%	2 0.9%	37 16.3%	13 5.7%	137 60.4%
40歳代 (N=207)	5 2.4%	3 1.4%	21 10.1%	0 0.0%	26 12.6%	8 3.9%	134 64.7%
50歳代 (N=38)	2 5.3%	3 7.9%	2 5.3%	0 0.0%	6 15.8%	1 2.6%	19 50.0%
60歳代 (N=57)	8 14.0%	7 12.3%	10 17.5%	1 1.8%	2 3.5%	3 5.3%	23 40.4%
70歳代 (N=33)	5 15.2%	4 12.1%	7 21.2%	0 0.0%	1 3.0%	4 12.1%	16 48.5%

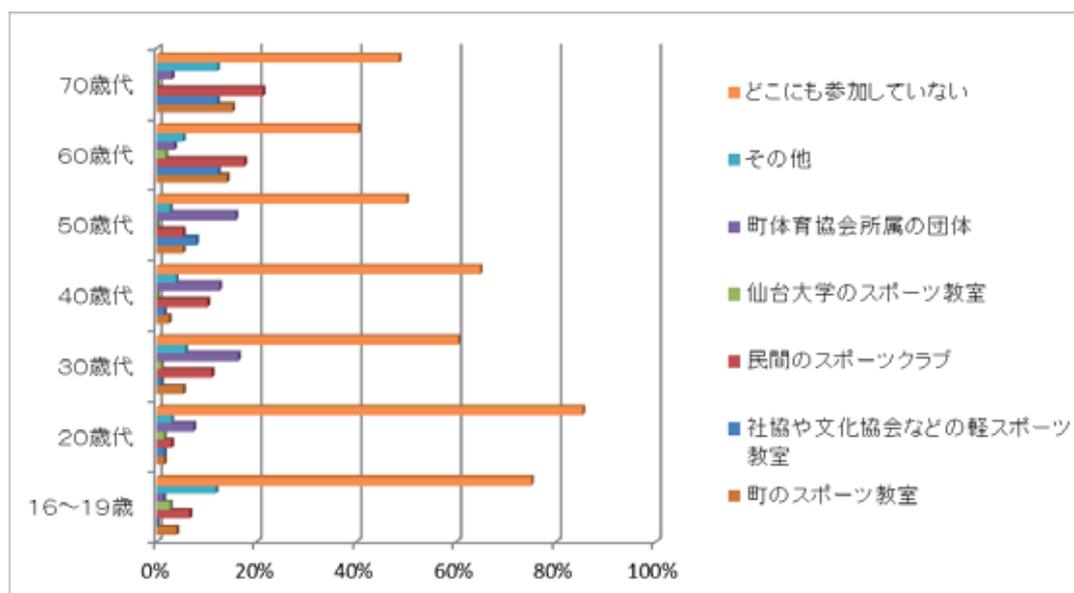


図 6) 参加している町の講座やスポーツクラブ

どの年代も「どこにも参加していない」が突出して多いが、60歳代、70歳代で「民間のスポーツクラブ」「町のスポーツ教室」もやや高い結果となっている。

7. 現在実施しているスポーツ以外の希望種目

表 7) 現在実施しているスポーツ以外の希望種目

	いろいろな種目のスポーツもやってみたい	気軽にやれるスポーツもやってみたい	もう1種目ぐらいはやりたい	今、やっているスポーツに集中したい	今、やっているスポーツはもう止めたい
全体 (N=706)	133 18.8%	250 35.4%	85 12.0%	195 27.6%	3 0.4%
男性 (N=360)	71 19.7%	114 31.7%	42 11.7%	111 30.8%	2 0.6%
女性 (N=346)	62 17.9%	136 39.3%	43 12.4%	84 24.3%	1 0.3%
16～19歳 (N=76)	24 31.6%	18 23.7%	4 5.3%	24 31.6%	0 0.0%
20歳代 (N=68)	29 42.6%	15 22.1%	6 8.8%	15 22.1%	0 0.0%
30歳代 (N=227)	42 18.5%	91 40.1%	30 13.2%	52 22.9%	0 0.0%
40歳代 (N=207)	28 13.5%	81 39.1%	31 15.0%	61 29.5%	1 0.5%
50歳代 (N=38)	4 10.5%	18 47.4%	1 2.6%	10 26.3%	1 2.6%
60歳代 (N=57)	4 7.0%	17 29.8%	8 14.0%	23 40.4%	0 0.0%
70歳代 (N=33)	2 6.1%	10 30.3%	5 15.2%	10 30.3%	1 3.0%

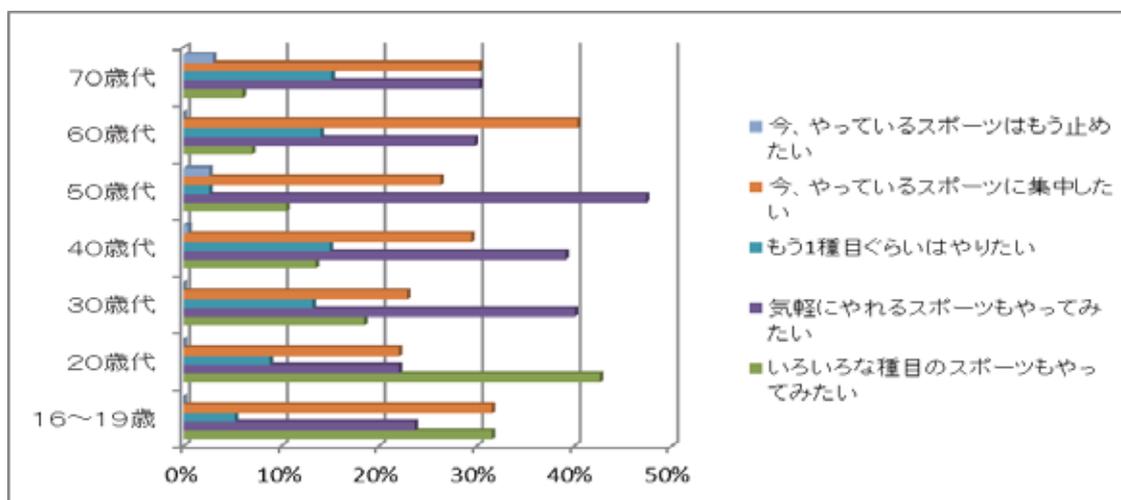


図 7) 現在実施しているスポーツ以外の希望種目

現在実施しているスポーツ以外の希望種目では、小中学生同様、年代による違いが多くみられる。最も多い「気軽にやれるスポーツもやってみたい」は30歳代から50歳代の中年層が多く、「今やっているスポーツに集中したい」は16～19歳、および60歳代以上の高齢者に多い。また「いろいろな種目のスポーツもやってみたい」は20歳代以下の若年層に多い結果となっている。

8. 運動やスポーツをしない理由

表 8) 運動やスポーツをしない理由

	体を動かすの嫌いだから	怪我が心配だから	上手にできないから	疲れるから	仕事や用事があって時間が無い	きっかけが無いから	他にやることがあるから	スポーツをする施設が空いてないから	費用が掛かりそうだから	その他
全体 (N=1307)	90 6.9%	68 5.2%	54 4.1%	199 15.2%	772 59.1%	428 32.7%	281 21.5%	50 3.8%	195 14.9%	85 6.5%
男性 (N=466)	24 5.2%	22 4.7%	6 1.3%	76 16.3%	308 66.1%	154 33.0%	115 24.7%	17 3.6%	50 10.7%	23 4.9%
女性 (N=841)	66 7.8%	46 5.5%	48 5.7%	123 14.6%	464 55.2%	274 32.6%	166 19.7%	33 3.9%	145 17.2%	62 7.4%
16～19歳 (N=64)	7 10.9%	0 0.0%	5 7.8%	11 17.2%	21 32.8%	18 28.1%	26 40.6%	5 7.8%	9 14.1%	3 4.7%
20歳代 (N=54)	5 9.3%	3 5.6%	3 5.6%	10 18.5%	32 59.3%	16 29.6%	16 29.6%	1 1.9%	8 14.8%	0 0.0%
30歳代 (N=501)	25 5.0%	9 1.8%	15 3.0%	72 14.4%	315 62.9%	172 34.3%	86 17.2%	21 4.2%	106 21.2%	26 5.2%
40歳代 (N=427)	30 7.0%	23 5.4%	17 4.0%	53 12.4%	277 64.9%	144 33.7%	95 22.2%	18 4.2%	62 14.5%	27 6.3%
50歳代 (N=93)	8 8.6%	7 7.5%	6 6.5%	16 17.2%	56 60.2%	29 31.2%	18 19.4%	3 3.2%	3 3.2%	8 8.6%
60歳代 (N=96)	7 7.3%	10 10.4%	3 3.1%	17 17.7%	57 59.4%	32 33.3%	21 21.9%	2 2.1%	4 4.2%	9 9.4%
70歳代 (N=73)	8 11.0%	16 21.9%	5 6.8%	20 27.4%	14 19.2%	17 23.3%	19 26.0%	0 0.0%	3 4.1%	12 16.4%

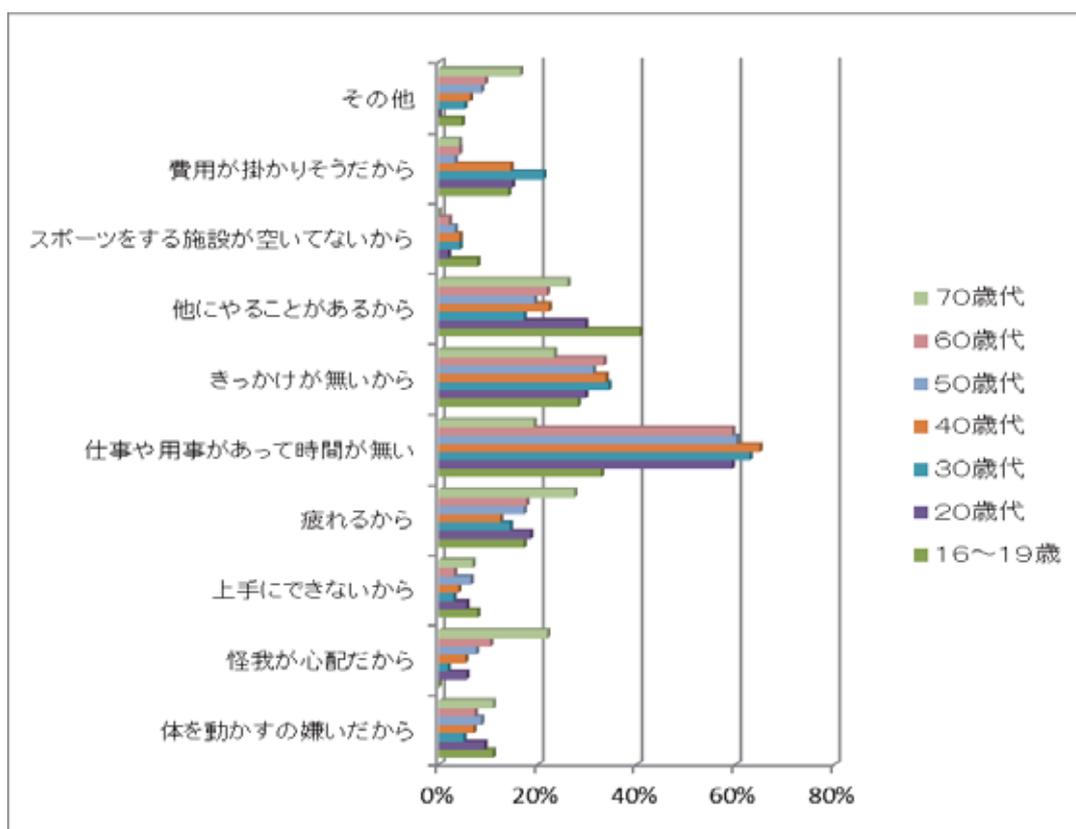


図 8) 運動やスポーツをしない理由

運動やスポーツをしない理由では、「仕事や用事があって時間がない」「きっかけがない」などが高く、いずれも16～19歳、70歳代を除き、高くなっている。

9. 今後の実施希望種目

表9) 今後の実施希望種目（上位5種目）

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
男性 全体	スイミング・水中トレーニング 16.1%	特になし 15.7%	野球 15.1%	ウォーキング 14.0%	サッカー 12.5%
16～19歳	バスケットボール 17.7%	バドミントン 16.1%	テニス 14.5%	野球/特になし 12.9%	
20歳代	バドミントン 28.0%	サッカー バスケットボール 20.0%		野球 18.0%	スイミング・水中トレーニング 卓球/特になし 10.0%
30歳代	野球 23.1%	サッカー 20.1%	スイミング・水中トレーニング 16.8%	ゴルフ/特になし 13.2%	
40歳代	スイミング・水中トレーニング 20.6%	ウォーキング 16.5%	特になし 15.1%	ゴルフ 14.3%	サッカー/野球 11.0%
50歳代	ウォーキング スイミング・水中トレーニング 20.3%		ゴルフ/特になし 17.2%		野球/ソフトボール 14.1%
60歳代	ウォーキング 32.2%	特になし 18.6%	グラウンド・ゴルフ 16.9%	スイミング・水中トレーニング 10.2%	パークゴルフ 8.5%
70歳代	特になし 39.1%	ウォーキング 32.6%	グラウンド・ゴルフ 17.4%	ゲートボール 10.9%	スイミング・水中トレーニング 8.7%
女性 全体	スイミング・水中トレーニング 24.4%	ウォーキング 23.2%	踊りやダンス 17.9%	バドミントン 17.4%	テニス 13.9%
16～19歳	テニス 21.8%	踊りやダンス 17.9%	バスケットボール バレーボール 16.7%		スイミング・水中トレーニング バドミントン 14.1%
20歳代	バドミントン 23.6%	踊りやダンス 20.8%	バスケットボール 19.4%	ウォーキング 16.7%	スイミング・水中トレーニング テニス 15.3%
30歳代	スイミング・水中トレーニング 28.6%	バドミントン 21.6%	踊りやダンス 19.2%	ウォーキング 17.6%	テニス 15.2%
40歳代	ウォーキング 29.0%	スイミング・水中トレーニング 24.6%	バドミントン 踊りやダンス 17.1%		テニス 16.6%
50歳代	ウォーキング 29.9%	スイミング・水中トレーニング 25.4%	特になし 17.9%	踊りやダンス 16.4%	バドミントン 11.9%
60歳代	ウォーキング 37.2%	スイミング・水中トレーニング 26.6%	踊りやダンス 19.1%	手芸・茶道・生花・菊花作り 18.1%	特になし 12.8%
70歳代	特になし 33.3%	ウォーキング 26.7%	手芸・茶道・生花・菊花作り 13.3%	スイミング・水中トレーニング 11.7%	卓球 グラウンド・ゴルフ 10.0%

今後の実施希望種目では、現在はそれほど実施率の高くなかった「スイミング・水中トレーニング」が、男女ともに第1位となっている。「スイミング・水中トレーニング」や女性の「バドミントン」希望者に対する、施設や指導者等の対応や配慮が必要といえる。男性の「特になし」の回答が多いことが気になる。

10. 多項目型スポーツクラブへの参加希望

表 10) 多項目型スポーツクラブへの参加希望

	是非、参加したい	できれば参加したい	忙しくて参加できないと思う	参加しない	総計
全体	308 15.7%	776 39.5%	545 27.7%	336 17.1%	1965 100.0%
男性	113 14.2%	278 34.9%	248 31.2%	157 19.7%	796 100.0%
女性	195 16.7%	498 42.6%	297 25.4%	179 15.3%	1169 100.0%
16～19歳	26 19.0%	48 35.0%	30 21.9%	33 24.1%	137 100.0%
20歳代	28 23.1%	34 28.1%	44 36.4%	15 12.4%	121 100.0%
30歳代	129 17.9%	263 36.5%	232 32.2%	96 13.3%	720 100.0%
40歳代	89 14.6%	274 44.9%	161 26.4%	86 14.1%	610 100.0%
50歳代	15 11.8%	55 43.3%	34 26.8%	23 18.1%	127 100.0%
60歳代	14 9.6%	67 45.9%	31 21.2%	34 23.3%	146 100.0%
70歳代	7 6.7%	35 33.7%	13 12.5%	49 47.1%	104 100.0%

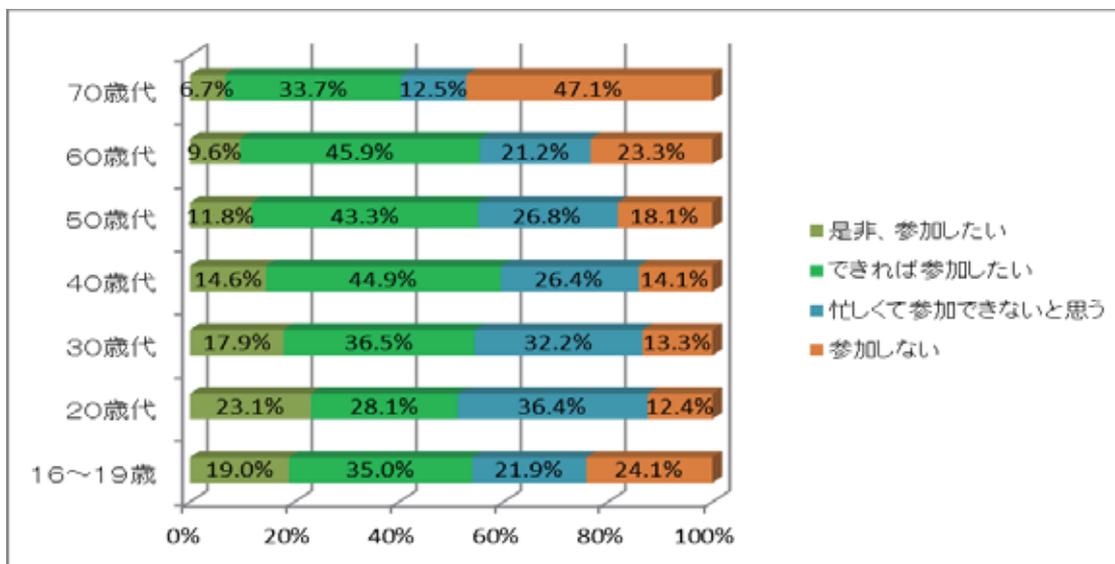


図 10) 多項目型スポーツクラブへの参加希望

多項目型スポーツクラブへの参加希望では、「是非、参加したい」と「できれば参加したい」を合わせると、全体では55%を超え、現在のスポーツ実施率などを勘案すると、かなり希望が高いといえる。男女別では女性が、年代別では若年層ほど希望が高いといえる。

11. 町のスポーツ施設の利用状況

表 11) 町のスポーツ施設の利用状況

	1年間に10回以上	1年間に数回程度	まったくない	総計
全体	110 5.5%	349 17.6%	1526 76.9%	1985 100.0%
男性	52 6.4%	158 19.4%	605 74.2%	815 100.0%
女性	58 5.0%	191 16.3%	921 78.7%	1170 100.0%
16~19歳	13 9.4%	31 22.5%	94 68.1%	138 100.0%
20歳代	5 4.1%	29 24.0%	87 71.9%	121 100.0%
30歳代	43 6.0%	116 16.2%	559 77.9%	718 100.0%
40歳代	28 4.4%	136 21.5%	468 74.1%	632 100.0%
50歳代	9 7.0%	11 8.5%	109 84.5%	129 100.0%
60歳代	6 4.1%	21 14.5%	118 81.4%	145 100.0%
70歳代	6 5.9%	5 4.9%	91 89.2%	102 100.0%

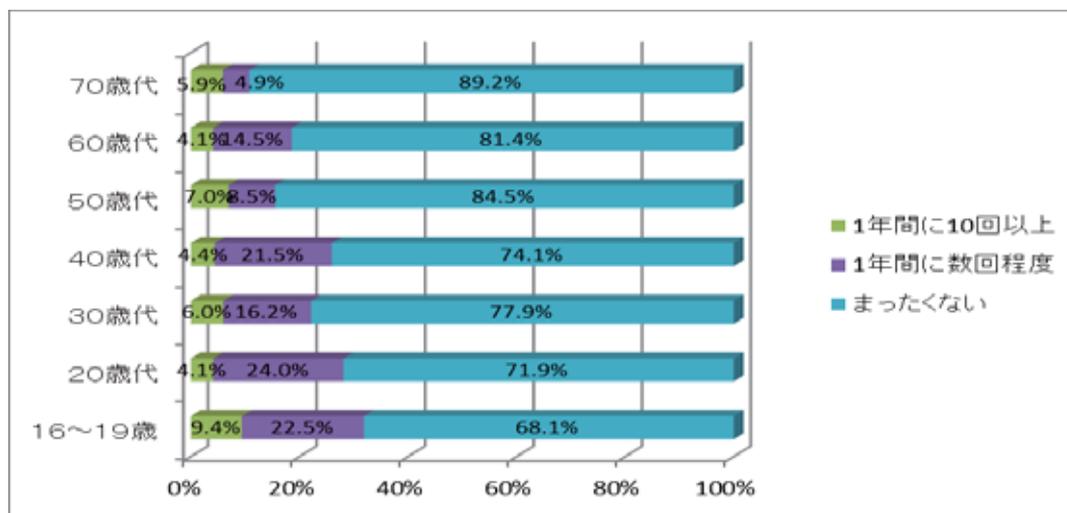


図 11) 町のスポーツ施設の利用状況

町のスポーツ施設の利用では、どの年代も「まったくない」の回答が多いが、若年層ほど、利用していることがわかる。

12. スポーツ活動への経費の許容範囲（月額）

表 12) スポーツ活動への経費の許容範囲（月額）

	支払ってまでしたくない	500円	1000円	2000円	3000円	5000円	内容によってはこだわらない	総計
全体	403 20.3%	199 10.0%	395 19.9%	305 15.4%	364 18.3%	114 5.7%	205 10.3%	1985 100.0%
男性	195 23.9%	68 8.3%	142 17.4%	111 13.6%	127 15.6%	58 7.1%	114 14.0%	815 100.0%
女性	208 17.8%	131 11.2%	253 21.6%	194 16.6%	237 20.3%	56 4.8%	91 7.8%	1170 100.0%
16～19歳	39 28.1%	31 22.3%	24 17.3%	10 7.2%	11 7.9%	3 2.2%	21 15.1%	139 100.0%
20歳代	31 25.6%	8 6.6%	20 16.5%	16 13.2%	19 15.7%	9 7.4%	18 14.9%	121 100.0%
30歳代	127 17.6%	74 10.3%	155 21.5%	118 16.4%	143 19.9%	42 5.8%	61 8.5%	720 100.0%
40歳代	101 16.0%	57 9.0%	138 21.8%	113 17.9%	128 20.3%	38 6.0%	57 9.0%	632 100.0%
50歳代	29 22.7%	11 8.6%	21 16.4%	13 10.2%	29 22.7%	7 5.5%	18 14.1%	128 100.0%
60歳代	37 25.7%	8 5.6%	20 13.9%	22 15.3%	27 18.8%	9 6.3%	21 14.6%	144 100.0%
70歳代	39 38.6%	10 9.9%	17 16.8%	13 12.9%	7 6.9%	6 5.9%	9 8.9%	101 100.0%

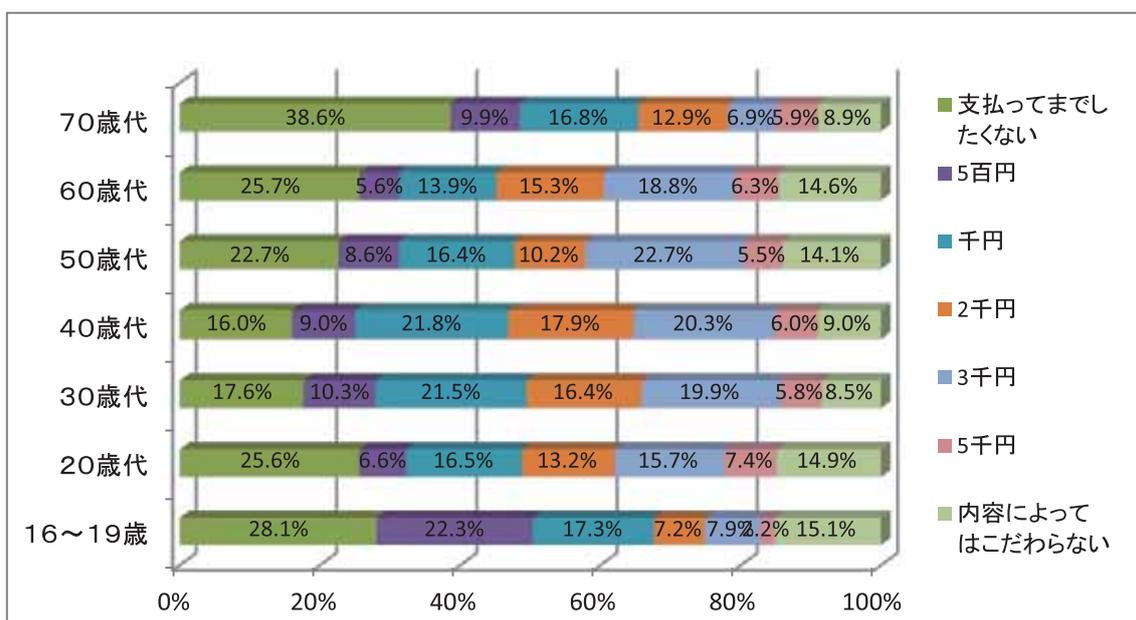


図 12) スポーツ活動への経費の許容範囲（月額）

月額スポーツ活動への経費では、全体では「支払ってまでしたくない」「1000円」「3000円」「2000円」の順となっている。「支払ってまでしたくない」は、男女別では男性、年代別では20歳代以下の若年層と60歳代以上の高齢者に多くなっている。「1000円」は30・40歳代、「3000円」は40・50歳代がやや多い結果となっている。

13. 総合型スポーツクラブに対する意見

表 13) 総合型スポーツクラブに対する意見

	親睦交流も深まり地域づくり・健康づくりも進みそうなのであった方がよいと思う	いろいろな種目のスポーツだけでなく文化活動も少しやれるクラブがよいと思う	既にわが町にはいろいろな種目の団体があるので、総合型は必要とは思わない	よく分からないので判断できない	総計
全体	799 40.2%	404 20.3%	117 5.9%	669 33.6%	1989 100.0%
男性	342 41.9%	127 15.5%	53 6.5%	295 36.1%	817 100.0%
女性	457 39.0%	277 23.6%	64 5.5%	374 31.9%	1172 100.0%
16～19歳	59 42.4%	20 14.4%	4 2.9%	56 40.3%	139 100.0%
20歳代	55 45.5%	22 18.2%	4 3.3%	40 33.1%	121 100.0%
30歳代	297 41.3%	132 18.4%	37 5.1%	253 35.2%	719 100.0%
40歳代	253 40.1%	144 22.8%	48 7.6%	186 29.5%	631 100.0%
50歳代	50 38.8%	30 23.3%	5 3.9%	44 34.1%	129 100.0%
60歳代	44 29.7%	36 24.3%	15 10.1%	53 35.8%	148 100.0%
70歳代	41 40.2%	20 19.6%	4 3.9%	37 36.3%	102 100.0%

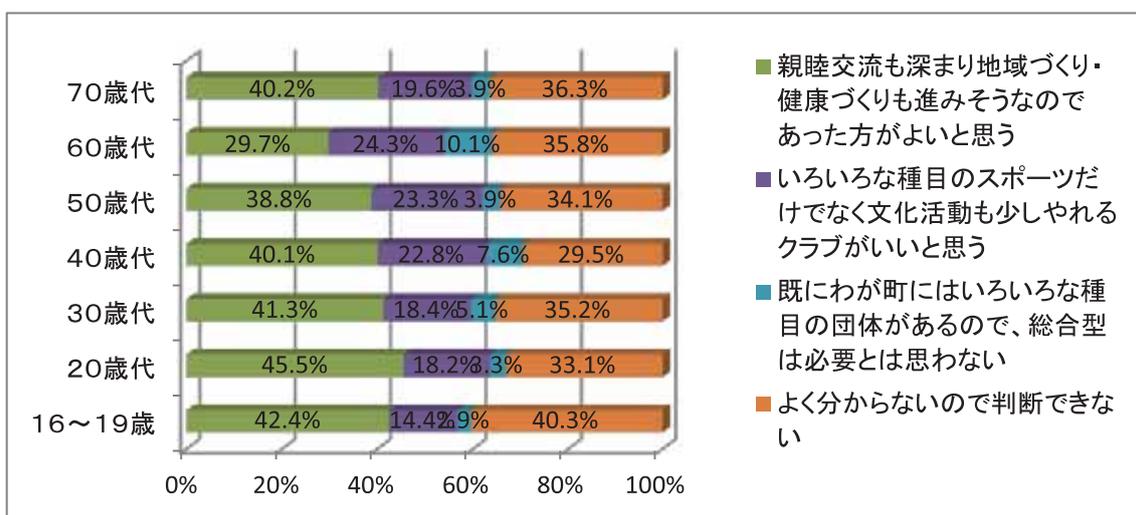


図 13) 総合型スポーツクラブに対する意見

総合型地域スポーツクラブに対する意見では、「文化活動もできるクラブ」を含めると、全体で60.5%の町民がその必要性を認めている。「必要とは思わない」は全体で5.9%と少ないが、「よく分からないので判断できない」が33.6%もあり、今後の啓蒙、周知徹底が必要といえる。

柴田町スポーツ推進計画

平成28年7月発行

編集・発行 宮城県柴田町教育委員会

〒989-1692 宮城県柴田郡柴田町船岡中央2丁目3番45号

TEL (0224) 55-2134 FAX (0224) 55-2132

印刷 株式会社 伊藤印刷
